

# 新修名古屋市史資料

## 公開資料一覽

平成31年（2019）3月



名古屋市政資料館



# 「新修名古屋市史資料」の利用にあたって

## 公開資料について

名古屋市市政資料館（以下、「資料館」と表記します。）では、新修名古屋市史（以下、「市史」と表記します。）の編さん過程で、収集した資料のうち、整理が終わり、複製本（紙焼本）にしたものを公開しています。資料の収集にあたっては、市史の編さん上重要と思われるものを抽出しているものが多く、資料の内容を基に資料名を付与したものがああります。また、所蔵者は、資料を調査、撮影した際の所蔵者を表記しています。このため、所蔵者や資料名が周知のものとは異なっている場合があります。

なお、この一覧では、以下のように、資料を大まかなまとまりごとに区分しています。

### 武家に関する資料

大名、旗本またはその家臣の文書です。通常は家に関する文書と支配に関する文書が混在しています。

### 藩政に関する資料

「武家に関する資料」のうち、尾張藩の機構に関する文書が含まれているものを「藩政に関する資料」としました。

### 町方に関する資料

名古屋の町の商家などに伝わった文書で、地域に密着した文書です。通常は家に関する文書や個人に関する文書が混在しています。

### 村方に関する資料

庄屋や戸長などの家に伝わった文書で、地域に密着した文書です。通常は家に関する文書や個人に関する文書が混在しています。

### 熱田に関する資料

熱田の商家などに伝わった文書で、地域に密着した文書です。通常は家に関する文書や個人に関する文書が混在しています。

### 社寺に関する資料

宗教法人として存続している社寺の文書と、かつて神主や修験などをしてきた家の文書です。

### 著述等

地誌などを収めた書物です。

### 愛知県・名古屋市に関する資料

明治4年（1871）7月の名古屋県成立以降の愛知県・名古屋市に関する資料です。

### 刊行物等

名古屋市に關係する新聞や雑誌類などの資料です。

### 和本等

主に近世以前に作られた冊子形の書物です。

## 「公開資料一覧」の項目について

**資料名** 資料館で公開している資料は、市史編さん上、重要と思われる資料のみを抽出して収集したものがああるため、これらの資料の名称は、周知のものと異なっている場合があります。

**資料番号** 資料館での整理番号です。

**所蔵者** 市史編さん過程で、調査し、撮影した時点の所蔵者名や所蔵機関名を記載しています。

**所蔵機関での名称** 資料の所蔵機関で付与されている資料名または資料群名、番号などを記載しています。

**役職など** 地域や個人・家が特定できる資料の場合、地域名、身分、勤務した役職、従事した職業のうち主要なものを記載しています。

**歴史** 地域や個人・家が特定できる資料の場合、地域にかかわる情報、庄屋、戸長などの職歴、代々の呼称、家業などを記載しています。

**公開資料の年代域** 公開中の資料の年代域を記載しています。大まかな年代又は詳細な年を記載しています。

**点数** 撮影した資料の点数を記載しています。市史編さん上重要と思われる資料を抽出撮影している場合があるため、目録や資料の総点数とは必ずしも合致していません。

**製本冊数** 資料ごとの複製本（紙焼本）の冊数です。

**公開資料の概要** 資料の内容の概要説明です。

**利用条件** 原資料の所蔵者・所蔵機関から、資料館での資料の公開にあたって複写禁止などの条件を付けられている場合は、その条件を記載しています。

**関連資料** 関連する資料の所在などを記載しています。

**市史への掲載** 市史に掲載している場合は、その巻・章などを記載しています。

# 「新修名古屋市史資料」公開資料目次

## 1 民間所蔵資料（各機関、名古屋市博物館を除く）

### (1) 武家に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
生駒家資料	1	大道寺家文書	3
石河家文書	1	富永資憲遺訓	3
内田家資料	1	樋口家文書	3
尾崎家資料	2	尾州徳川藩日記・家例年中行事	4
尾張藩士関係資料 I	2	正木家文書	4
尾張藩士関係資料 II	2	丸山家文書	4
外山半三氏所蔵 加藤正左衛門家文書	2	箕浦家資料	4
酒井家文書	3	鳴弦墓目之大事相伝免許	4
清水家文書	3	滝川家資料	5

### (2) 藩政に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
尾張藩支配関係資料その他資料	5		

### (3) 町方に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
朝日町美濃屋佐兵衛家文書	5	材摠木材資料	9
伊藤次郎左衛門家資料	6	菅井家資料	9
伊藤次郎左衛門家資料 御触留帳	7	橘町町有資料	10
岡崎家文書	8	橘町西六組共有文書	10
岡谷鋼機株式会社資料	8	筒井 稔氏所蔵 藤屋資料	10
川伊藤家文書	8	前田義則氏所蔵 藤屋資料	10
川伊藤家文書（追加分）	8		

### (4) 熱田に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
加藤千代子家資料	11		

## (5) 村方に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
慈雲寺所蔵 相羽式郎資料	1 1	高針西山地区講関係資料	1 7
外山半三氏所蔵 熱田新田西組資料	1 1	高針新屋敷島資料	1 7
大島秀基家文書(旧大島将男家文書)	1 2	高針東古谷棒之手保存会所蔵資料	1 7
尾張藩三浦山三ヶ村山守文書	1 2	永井士前家文書	1 7
桶狭間中組養蚕関係資料	1 3	名古屋新田地価仕出帳	1 7
梶野渡家資料	1 3	外山半三氏所蔵資料 鳴駅便覧	1 8
加藤平右衛門家文書	1 3	鳴海宿関係資料	1 8
楠田家資料	1 3	長谷川文男家資料	1 8
慶応四年・明治三年 鳴海村風水害資料	1 4	水野忠久家資料	1 8
柴田孝明家資料	1 4	水野淳一家資料 I	1 8
下飯田村資料	1 5	水野淳一家資料 II	1 9
下郷家資料その他宿場関係資料	1 5	横地隆家文書	1 9
筒井稔氏所蔵 下郷家文書	1 5	吉田家資料	1 9
筒井稔氏所蔵 下郷家文書(追加分)	1 6	引山西組所蔵資料	1 9
外山半三氏所蔵 下郷家文書	1 6		

## (6) 社寺に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
栄国寺資料	2 0	泥江縣神社資料	2 1
熊野社資料	2 0	正眼寺文書	2 1
建中寺資料	2 0	成海神社資料	2 2
洲崎神社資料	2 0	宝泉寺資料	2 2
善篤寺資料	2 0	西照寺資料	2 2
東照宮資料	2 1	性高院資料	2 3
那古野神社資料	2 1	片山八幡神社資料	2 3
普蔵寺関係資料	2 1		

## (7) 愛知県・名古屋市域に関する近代資料

資料名	頁	資料名	頁
愛知県管内新旧市町村分合改称録(行政資料登録)	2 4	御布達留	2 4
愛知県下町村名覧(行政資料登録)	2 4	中村区郷土資料	2 4

## (8) 刊行物等

資料名	頁	資料名	頁
新愛知新聞(行政資料登録)	2 4	名古屋新聞(行政資料登録)	2 5
中部日本新聞(行政資料登録)	2 5		

## (9) 和本等

資料名	頁	資料名	頁
香道関係資料	2 5	菅井家和本	2 6
常磐津関係資料	2 5		

2 各機関所蔵資料（名古屋市博物館を除く）

(1) 武家に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
北海道立文書館所蔵 明治十一年 愛知県土族移住事件	27	北海道立文書館所蔵 明治十一年ヨリ 愛知県土族遊楽部移住書類	27

(2) 藩政に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
名古屋市市政資料館所蔵 尾張藩分限帳	27	徳川林政史研究所所蔵 藩士名寄	27

(3) 町方に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
名古屋市市政資料館所蔵 森井家資料	28		

(4) 村方に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
立教大学所蔵 尾張国海東郡戸田村文書	28	名古屋市市政資料館所蔵 製茶関係資料	29
立教大学所蔵 下郷家文書	28	名古屋史料研究所所蔵資料	29
名古屋市市政資料館所蔵 下郷保家文書	29		

(5) 愛知県・名古屋市に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
内閣文庫・愛知県史料（行政資料登録）	29	愛知県令訓類集（行政資料登録）	30
西尾市岩瀬文庫所蔵 愛知県勢事蹟（行政資料登録）	30	名古屋市市政資料館所蔵 改正町名録（行政資料登録）	30
愛知県布達索引（行政資料登録）	30	西尾市岩瀬文庫所蔵 名古屋地域調（行政資料登録）	30

(6) 刊行物等

資料名	頁	資料名	頁
愛岐日報（行政資料登録）	31	金城大和新聞（行政資料登録）	31
愛知新報（行政資料登録）	31	黄金新聞（行政資料登録）	31
繪入黄金新聞（行政資料登録）	31	自由新聞（行政資料登録）	32
金城たよ里（行政資料登録）	31	農民（行政資料登録）	32

### 3 名古屋市博物館所蔵資料

#### (1) 武家に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
石原家資料 I	3 2	渡辺半蔵家資料 I	3 2
深津家資料 I・III	3 2	渡辺半蔵家資料 II	3 3

#### (2) 町方に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
麻屋吉田家資料	3 3	津田助左衛門家資料	3 4
富田重助家資料	3 3	水野太郎左衛門家資料※	3 4

※名古屋市博物館寄託資料

#### (3) 熱田に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
宮本陣南部家資料	3 4	御朱印之写并御折紙之写	3 5
熱田江崎家資料	3 5		

#### (4) 村方に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
春日井郡小田井村野口市兵衛家資料	3 5	坂野家資料	3 7
愛知郡鳴海町役場資料	3 6	小出勝彦家資料	3 6
愛知郡鳴海村下郷家資料 I・II	3 6	小出勝彦家資料 黒川	3 8
大矢家資料	3 6		

#### (5) 著述等

資料名	頁	資料名	頁
尾陽寛文記	3 8	上古考	3 8

#### (6) 愛知県・名古屋市に関する資料

資料名	頁	資料名	頁
愛知郡南野村 立松家資料	3 9	緑区役所旧蔵資料	3 9
春日井郡楠村 安藤商店関係資料	3 9		

#### (7) 名古屋市博物館所蔵資料【その他の資料】・・・40頁

## 武家に関する資料

資料名 生駒家資料

資料番号 CP 059/001

所蔵者 個人蔵

役職など 主計・因幡守／大参事

歴史 生駒家は、初代家広が文明～明応年間（1469～1501年）に大和国生駒郷から小折村（現 江南市）に移住したときに始まる。信長・秀吉などに仕え、尾張藩成立以後は尾張徳川家の家臣団に加わった。安永2年（1773）には知行石高4千石となり、以後、藩政の枢軸に関わり明治維新を迎えている。

公開資料の年代域 江戸初期～明治

点数 612点 製本冊数 24冊

公開資料の概要 公文書としては、朝廷から出された位記・宣旨・口宣案が、藩主からは知行宛行の黒印状や年頭の儀礼に対する礼状が残されている。

最も多いのは、家譜・系図・勤書等の類である。勤書などから抜書きされた書付には、藩の要職にあった役目上、藩の動きに関する記述がある。

また、信長の側室で信雄を産んだ生駒家女（桂昌尼）の法事に関する柏原藩織田家（信雄直系）とのやりとりの書状も多く残されている。

資料名 石河家文書

資料番号 CP 082/006

所蔵者 個人蔵

役職など 伊賀守／年寄

歴史 石河家は、尾張藩の年寄役を代々つとめた家で、初代石川光忠が慶長11年（1606）徳川家康に仕えたことをはじめとする。同15年には濃州・摂州に新知一万石を与えられる。慶長17年に尾張藩初代藩主義直に付属とな

る。二代正光が慶安5年（1652）尾張藩の年寄役に列して以降、歴代にわたり年寄役を世襲する。享保7年（1722）正章の代に石川を石河と改め、明治には男爵となる。

公開資料の年代域 江戸中期～明治

点数 149点 製本冊数 3冊

公開資料の概要 資料の構成は書状が中心となっている。多くは、家中に関する事で、家臣の暇の件、勝手方の借財の件、および家老役人選の件などがある。

関連資料 鶴舞中央図書館に「石河家文書」として文政から慶応までの在所（駒塚）での日録（63点）、幕藩関係・尾張藩政・系譜関係・知行所関係については、徳川林政史研究所の「石河家文書」（「石河家文書目録（一）・（二）」『徳川林政史研究所 研究紀要』第39・41号、2005・2007）がある。

資料名 内田家資料

資料番号 CP 084/003

所蔵者 個人蔵

公開資料の年代域 江戸後期～昭和

点数 54点 製本冊数 3冊

公開資料の概要 現在の東区百人町に屋敷があった尾張藩重臣渡辺半蔵家に属した百人組同心の「文化8年（1811）の百人組由緒書」がある。

近代以降の資料が多く、明治6年（1873）の町並帳・実地丈量帳などの地租改正時の資料などがある。

関連資料 同心組支配の渡辺半蔵家については、徳川林政史研究所の「渡辺半蔵家文書」（「渡辺半蔵家文書目録」『徳川林政史研究所 研究紀要』第36号、2002）、名古屋市博物館の「渡辺半蔵家資料Ⅰ・Ⅱ」がある。



## 資料名 尾崎家資料

資料番号 CP 084/002

所蔵者 個人蔵

役職など 藩士

**歴史** 近世文学の先駆的研究者である名古屋商科大学教授尾崎久弥氏（国文学者）が収集した資料。尾崎氏は浮世絵、江戸文学書の収集でも知られ、そのコレクションは名古屋市蓬左文庫で公開されている。この資料は尾張藩士である尾崎家のもので、岡崎藩士であった久弥家のものではない。

**公開資料の年代域** 江戸中期～明治初期

**点数** 269点 **製本冊数** 5冊

**公開資料の概要** 資料の年代は、寛政期（1789～1801年）から幕末維新にかけてのものが多く、家訓・親類書・勤書などがある。尾崎東一郎、儀平、鏡蔵、吉従の名が見え、「一円勤書覚」には、儀平、鏡蔵の役職拝命が天保期（1830～48年）から明治2年（1869）までおおよそ年代順に綴じられている。

## 資料名 尾張藩士関係資料 I

資料番号 CP 082/011

所蔵者 個人蔵

**歴史** この資料は、所有者が個別に収集した資料をまとめたもの。

**公開資料の年代域** 元禄～嘉永

**点数** 63点 **製本冊数** 9冊

**公開資料の概要** 資料名は、公開にあたって付したもので、所蔵者による整理ではない。また、I・IIの分類は市史での収集時期の区分である。

尾張藩、竹腰家（尾張藩家老）の今尾藩などの分限帳が主。藩重臣の書状、知行安堵状や、短冊類がある。

## 資料名 尾張藩士関係資料 II

資料番号 CP 082/012

所蔵者 個人蔵

**歴史** この資料は、所有者が個別に収集した資料をまとめたもの。

**公開資料の年代域** 江戸後期

**点数** 7点 **製本冊数** 3冊

**公開資料の概要** 資料名は、公開にあたって付したもので、所蔵者による整理ではない。また、I・IIの分類は市史での収集時期の区分である。

下級武士に関する資料が主。作事方役人名を書上げた「御作事惣帳」、百姓が志水家に召し抱えられた記録である天保15年（1844）の「家来成附記録帳」などがある。

**市史への掲載** 資料編近世1 第3章第2節

資料名 外山半三氏所蔵

## 加藤正左衛門家文書

資料番号 CP 022/002

所蔵者 個人蔵

役職など 山廻り同心

**歴史** 加藤家は、尾張藩御林方の下級役人で山廻り足軽（のち同心）をつとめた。初代正左衛門は、宝暦9年（1759）、定光寺廟番（定光寺に葬られた藩祖義直の墓守）に任じられている。以後、天明8年（1788）に死去するまで、山廻り足軽の仕事に加えて御廟の掃除や拝礼、藩主の参拝を迎え入れる準備、廟の修復工事の立ち会いなど、廟番としての職務をこなしている。

**公開資料の年代域** 元文～明治

**点数** 174点 **製本冊数** 30冊

**公開資料の概要** 加藤正左衛門家の4代にわたる日記のほか、春

日井郡・愛知郡の山林名やその面積の書上、村々在住の猟師の名寄帳（名簿）、藩主の狩り御用の覚などがある。山廻り足軽の日常業務がよくわかる。植林や伐採・枝打ちなど山林の管理、秋には松茸の献上、年末には城や屋敷を飾る門松の調達、依頼された鹿・猪・兎の狩りなどの記述があり、尾張藩の山林支配の一端を今に伝えている。

また、4代正左衛門が、御林奉行水野権平に従って甲信越に東征した際の記録がある。

## 資料名 酒井家文書

資料番号 CP 082/003

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 江戸（天保～）

点数 162点 製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 資料は書状が中心で、他に「自分一札」などがある。書状は時候の挨拶、見舞状、礼状、近況報告などで、役目に関する資料は見られない。

## 資料名 清水家文書

資料番号 CP 082/005

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 文化～嘉永

点数 8点 製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 本資料の清水家は「藩士名寄」に記載がなく、藩内での身分は不明である。「仲満勤書録附 控」に記録されている者は、切米四石1人分から六石2人分までで、すべて一代限の扱いとなっている。この中で、清水家は組頭役となっている。

## 資料名 大道寺家文書

資料番号 CP 082/007

所蔵者 個人蔵

役職など 玄蕃／年寄

歴史 大道寺家は元後北条氏の仕家臣。小田原落城の後、大道寺政繁（駿河守）の子直重は、清洲で松平忠吉に召出され、忠吉没後尾張藩初代藩主義直に仕える。藩士となって二代目にあたる大道寺直時以来、歴代にわたり尾張藩の年寄役をつとめる。

点数 12点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 元禄6年(1693)の「大道寺玄蕃同心知行所村々高付」及び書状がある。

関連資料 名古屋大学の「大道寺家文書」(大塚英二「尾張藩年寄大道寺家文書について」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』第七号 1991年)、「尾張藩年寄大道寺家文書目録」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』第九号 1993年)、「尾張藩年寄大道寺家文書目録補遺」『名古屋大学古川総合研究資料館報告』第一一号 1995年)、「徳川林政史研究所の「大道寺家文書」(「大道寺家文書目録」『徳川林政史研究所 研究紀要』第37号 2003年)がある。

## 資料名 富永資憲遺訓

資料番号 CP 083/001

所蔵者 個人蔵

役職など 藩士

公開資料  
の年代域 江戸中期

点数 1点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 享保2年(1717)に200石を賜り御馬廻役となり、寛保元年(1741)に御書院番役となった尾張藩士富永資憲が、宝暦4年(1754)に子の資方に遺したものである。

## 資料名 樋口家文書

資料番号 CP 088/001

所蔵者 個人蔵

役職など 藩士（切米七石二人扶持）

点 数 5点 製本冊数 1冊

公開資料  
の年代域 明治初期

公開資料  
の概要 勤書・親類書、藩主帰国の際の御道中供奉帳などがある。

点 数 5点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 樋口清助・虎三郎の勤書、明治初期の土地  
私下関係資料などがある。

資料名 丸山家文書

資料番号 CP 082/002

資料名 尾州徳川藩日記・家例  
年中行事

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 元文3年（1738）～明治

資料番号 CP 028/001

点 数 19点 製本冊数 2冊

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の概要 親類書、勤書、根一札などの家に関する資料を  
中心に構成される。これらの資料は元文3年～明治まで網  
羅されており、代々の役職の変遷をみることができる。

点 数 2点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 資料名は公開に当たって付したものである。

石河佐渡守の嘉永4年(1851)8月から10月までの日記  
と家例年中行事(安永年間の原本を弘化年間に写したもの)  
である。

資料名 箕浦家資料

資料番号 CP 091/001

関連資料 石河家関係の資料は、鶴舞中央図書館の「石河  
家文書」として文政から慶応までの在所（駒塚）での日録  
（63点）、幕藩関係・尾張藩政・系譜関係・知行所関係に  
ついては、「石河家文書」（「石河家文書目録（一）・（二）」  
『徳川林政史研究所 研究紀要』第39・41号 2005・2007  
年）がある。

所蔵者 個人蔵

歴史 箕浦家は成瀬家領地であった守山廿軒家地区の  
管理のため配された同心組の家のひとつである。

公開資料  
の年代域 文政～明治

資料名 正木家文書

点 数 60点 製本冊数 1冊

資料番号 CP 082/004

公開資料  
の概要 借用証文、土地譲渡証文、明治初期の成瀬領  
下資料などがある。

所蔵者 個人蔵

歴史 「代々勤書」（第2号文書）によれば、正木家  
は享保20年（1735）、正木安之右衛門が勘定方見習手代  
に召抱えられたのをはじめとする、御小納戸頭や書院番を  
勤めた家である。

資料名 <sup>めいげんひきめ</sup>鳴弦墓目之大事相伝免許

資料番号 CP 087/001

公開資料  
の年代域 嘉永～安政

所蔵者 個人蔵

役職など 藩士

公開資料  
の年代域 江戸前期（元禄）

点 数 1点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 京都三十三間堂の通し矢で天下一の記録を誇った星野勘左衛門茂則が弟子に与えた弓術の免許状。

資料名 滝川家資料

資料番号 CP 072/001

所蔵者 個人蔵

役職など 藩士

公開資料  
の年代域 江戸後期～大正

点 数 349点 製本冊数 13冊

公開資料  
の概要 滝川家資料は、尾張藩の重臣であった滝川分家の資料である。第1に、滝川分家の系譜関係で、系図によれば、滝川氏は木全氏であった忠征が滝川一益にその姓を与えられたのに始まり、本家は二男時成に引継がれる。分家は三男忠尚を初代とし、三代忠栄が享保15年（1730）本家名跡を相続した為断絶したが、文政6年（1823）本家九代忠暁五男忠貫によって再興された。その経緯を分知願等から見ることができる。他に本家の所領変遷を辿ることの出来る記録もある。

第2に、四代忠貫から六代忠宣関係の資料があり、忠貫は御側御用人、御城代、年寄等要職を歴任、長州戦争の際には武者奉行を勤め、安房守に任官されている。こうした役目関係の書状が多い。

五代忠教については西南戦争における死亡関係書類等、忠宣については名古屋郵便局並名古屋通信局拝命書が中心である。

第3に『金城温古録』の編者である奥村得義関係の資料があり、中でも『金城温古録』成立直前のものと思われる書状は、『金城温古録』の成立過程を知る上で興味深い資料である。他に、門制について忠貫への内奏を願う書状とその添付書類等、名古屋城に関する書類がある。

第4に、絵図類があり、大阪の陣等の合戦図、水利関係図、長州関係絵図、海防図等が含まれる。分家初代忠尚・二代忠周が御旗奉行を勤めた関係からか、旗旗の図写もある。

第5に、文化関係、その他の資料がある。『尾張志』序文

写は、忠貫が尾張藩の記録作成の藩側の責任者であったことが窺える資料である。又、国朝徳川系譜関係資料、廃藩置県前に企図された帰田法がある。他に、和歌、役目の作法関係資料、書籍の抜書等を見ることができる。

## 藩政に関する資料

資料名 尾張藩支配関係資料

その他資料

資料番号 CP 067/003

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 幕末～明治

点 数 59点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 城防衛のための軍勢人数についての達書（文久3年（1863））などがある。

## 町方に関する資料

資料名 朝日町美濃屋佐兵衛家文書

資料番号 CP 048/001

所蔵者 個人蔵

役職など 戸長・醸造業

歴史 美濃屋佐兵衛家は、朝日町で味噌、溜りなどを扱う商家で、寛政年間（1789～1801年）には商売を始めていたという。町奉行御用達格を与えられ、幕末頃には町代を、明治期には副戸長、戸長をつとめている。

公開資料  
の年代域 江戸中期～明治

点 数 171点 製本冊数 51冊

公開資料  
の概要 町代、戸長などをつとめていたことから、御用留帳や宗門改帳、家並帳、地租改正地価取調帳などがある。

商売に関する文書は、安政年間（1854～1860年）から明治末にわたる大福帳や当座帳、仕入帳などの帳簿類がある。弘化2年（1854）から嘉永2年（1849）にかけての出店勘定帳、車力帳からは、出店があったことも分かる。ほかに金子借用証文、奉公人請状などもある。

## 資料名 伊藤次郎左衛門家資料

資料番号 CP 004/001

**歴史** 伊藤次郎左衛門家は清須越以来の名古屋を代表する商家、いとう呉服店（のちの松坂屋）の創業家である。江戸時代は呉服・太物の商売を営み伊藤屋と称したとされている。

由緒書によれば、慶長16年（1611）、初代祐道が清須より名古屋に移り本町で商売を始めた。祐道の死後、2代祐基は万治2年（1659）に茶屋町で呉服小間物問屋を開いたが、それ以前、遅くとも次郎左衛門宛の金子借用証文の残る寛永15年（1638）には名古屋で商売を始めていたと思われる。元文元年（1736）には小売業に転じ、現金売りを始めた。また、5代祐寿のとき、延享2年（1745）には京都に仕入店を開設した。祐寿以後の家督相続は子供の早逝がつづき困難を極めたが、祐潜・祐清・祐正の妻であった喜代（のちの宇多）が家督を相続、さらに夫の11代祐恵に継承した。

祐恵につづく12代祐躬・13代祐良の時代には明和5年（1768）に江戸上野に出店を開設（松坂屋いとう呉服店、鶴店）、文化2年（1805）年には江戸大伝馬町に木綿問屋（亀店）を開くなどめざましい発展をとげた。

明治43年（1910）には、いとう呉服店をデパートに転換し茶屋町から栄町に移転した。また、大正14年（1925）には南大津町に移転するとともに社名を「いとう呉服店」から「松坂屋」に変更した。

**公開資料の年代域** 江戸前期～昭和

**点数** 30,000点余 **製本冊数** 906冊

**公開資料の概要** 資料の内容は多岐にわたるが、おおそ以下のように分類できる。

### ①家・店に関するもの

初代祐道以来の由緒書や家訓（掟書）のほか、尾張藩から与えられた家格を示す資料などが含まれる。掟書の中には『資料編近世I』に掲載した安永3年（1774）のもの以外に延享2年（1745）に京店を開設した際のもの、文化2年（1805）に江戸大伝馬町に亀店（木綿の仕入店）を開設したときのものも含まれる。また、明治14年（1881）と24年（1891）の店則改正に関する資料もまとまっている。また、伊藤家の慶事、法事の記録や茶道具の売買に関する

資料も多く、縁戚に関する資料もある。

### ②別家・奉公人

給料、任免、年限など奉公人の待遇についての資料がみられる。給料については寛政4年（1792）～慶応元年（1865）の職階別の給料や増額の経緯を符丁で示した資料があり、『資料編近世I』（723頁）の対照表にしたがって読み解くことができる。そのほか、近世の奉公人の採用に関する資料（奉公人請状、宗門送一札など）が多数含まれ、寛政元年（1789）～文化3年（1806）にわたる「奉公人女請判」（2点）は56年間にわたる女奉公人の採用をみることができる。年代は貞享元年（1684）～慶応4年にわたり、奉公人の人数は男性に限っても569人を数える膨大な資料群である。嘉永4年（1851）～明治39年（1903）の仕着せ帳のほか近代における店員の任免の記録などもある。

また、近代の資料では店員の組織である「同盟社」・「共進社」のものも含まれる。

### ③店舗の拡大と経営

伊藤家が万治2年（1659）に呉服小間物問屋を開業以後、寛文7年（1667）以降順次敷地を買取り、店舗を拡大してきた経過をたどることのできる資料がまとまっているが、近世の経営の資料は比較的少ない。延宝6年（1678）の万覚帳は、3代祐蔵の晩年から4代祐政の前半期にあたる延宝5年（1677）から元禄6年（1693）の伊藤家の各年度末の決算の記録である。また、上野店（松坂屋いとう呉服店、鶴店）の経営方法について同店を譲った大田覚城らが伊藤次郎左衛門に宛てて苦言を呈した書状もみられ、他国に出店することの難しさや苦勞が窺える。

近代資料の中では、明治30年代の本店・支店間の往復書簡や明治末から大正にかけての営業報告書、旧伊藤銀行関係の資料などがまとまっている。明治43年（1910）に百貨店を開業したときの「いとう呉服店新築所用書」は当時の計画の一端がわかる資料である。

### ④取引

各地の仕入れ先とのやりとりの他、伊藤家の顧客の一人である尾張藩重臣山澄家に納品した記録がみられる。引札は4点ある。1点は木更津で出張販売をしたときのもので、年代未詳だが江戸時代のものであり、呉服商の出張販売が江戸時代から行われていたことを裏付ける資料である。1点は安政3年のもので大地震で焼失後の上野店の開店を披露するものである。他に嘉永4年（1851）に配った引札の枚数や配布先、配付の方法などの記録もみられる。『資料編近世I』（794・803頁）に掲載した2点の引札も含まれている。

### ⑤職人

呉服の生産は京都で行われており、張物職、湯熨斗商、紅染商など様々な下職人が京店に多数出入りしていた。こうした職人が出入りに際して提出した請負証文や、出入りを取り次いだ職人（伊藤店職頭・出入頭とよばれた）が提出した取次請負証文が、文化13年（1816）から文久2年（1862）にわたって約160点残されている。また、これらの職人の出入りを記した「永禄帳」には、廃業による入れ替わりがみられ、職人の生活も不安定であったことが窺える。そのため、紺屋仲間が買取価格の引き上げなどを求めた願

書も出されている。

#### ⑥金融

金子借用証文や経営における金銭のやりとりについての資料は豊富である。借主の中には尾張藩の重臣の名もみえる。尾張藩は藩財政の窮乏を打開するため、寛政10年(1798)に御勝手御用達の制度を設けた。これは、町方の有力商家を御勝手御用達二十人仲間に任命、調達金上納や米切手の正金引き替えなどにあたらせるものである。寛政10年10月付の御用金調達覚には伊藤家がそれまで上納した調達金が記されており、伊藤家が御勝手御用達仲間に入るにあたって作成されたものと思われる。また、伊藤家が延宝2年(1674)に調達金を出していることがわかる資料や延宝8年(1680)の調達金受取手形、寛政10年(1798)の御勝手御用達制度の創設に関連した資料など『資料編近世I』に掲載されたものも含まれる。さらに、制度の創設より以前の明和2年(1765)には、伊藤家を含む城下の商人14人が「十四人組」の名で調達金を負担していることがわかる。

また、明治5年(1872)～6年の上納金受取人名記や明治8年の秩禄公債買入記をはじめ、明治初年の資料も多い。

#### ⑦新田経営

享保頃の鍋蓋新田の入手事情がわかる資料がみられる。また、『資料編近世I』第3章・第5章の新田の項に掲載した資料も含まれる。近代のものでは明治20年～30年代の宝生新田、豊宝新田の開墾工事等に関する資料や、明治41年(1908)の水袋新田、豊宝新田、宝生新田の名寄帳などがまとまっている。

#### ⑧仲間

寛政6年(1794)年に上野店が呉服組に加入したときの資料や文政2年(1819)の十仲間呉服組布印札員数控など江戸の呉服組に関する資料がある。また、明治26年(1893)の呉服太物洋反物商組合原簿、呉服類小売商の組人名録も含まれる。

#### ⑨商業政策

伊藤家が近世、近代を通じて藩政・県政に深くかかわったことから残された資料群である。商法懸の御用留もそのひとつで、維新政府の政策である太政官札の発行を名古屋において実施しようとしたときの諸記録である。また、第十一国立銀行の創立に関する資料もまとまっている。

#### ⑩通商会社

明治4年に成立した通商会社に関する資料で、10次分の資料群の中で、最も注目される資料である。

伊藤次郎左衛門が通商会社の総頭取に任命されたために、伊藤家に残ったものと思われる。内容は「御用留」「諸留」等通商会社の事業の記録のほか、多岐にわたる職種の商工業者が名前を連ねる届・商売の規則書が80余冊含まれる。

「醤油業商律」、「白木綿業人名録」などがその例である。

#### ⑪祭礼関係

東照宮祭礼、特に山車等の修復に関する上長者町の資料がまとまっている。年代のわかるものでは享保16年(1731)10月の「町内御祭礼車取替帳」がもっとも古いが、

明和～嘉永年間(11代祐恵、12代祐躬、13代祐良の時代)のものが多い。中には祭礼の山車を修復するために、町内から表間口一間につき一日一銭宛取集めた記録や祭礼入用払方の控帳、祭礼車の幕や桃灯などの意匠や寸法を記したのものも含まれる。

以上の分類以外にも「茶道具の売買に関する資料」、「宗教に関する資料」、「町に関する資料」など、多様な資料が含まれる。

#### ⑫明治初期の書状類

- ・各地の情報を伝えたもの…洪水、火事、地震など
- ・明治4年の天守閣拝見に関するもの
- ・金鯨の返還に関するもの
- ・小学校の設立に関するもの
- ・名古屋博物館に関するもの

伊藤祐昌が明治12年～16年に館長であったことから館長宛の書状も多い。なお、学校の設立や博物館の事業に関係した小田切春江の書状もある。

#### ・奏楽関係

伊藤祐昌は、恒川重富に師事して雅楽を行っており、博物館や徳川家との関係で奏楽も頻繁に行われていることがわかる。書状の差出人のなかには、初代名古屋区長吉田禄在(私立絵画共進会開設に関する依頼状、貧民救助の件での相談の依頼状など)や二代区長服部直衛などの名前もみられ、伊藤次郎左衛門(祐昌)の置かれた立場の重要性を推測できる。

## 資料名 伊藤次郎左衛門家資料 御触留帳

資料番号 CP 004/002

**歴史** 本資料は茶屋町に伝来した御触書の留帳(町触)である。伊藤家が入手した経路はわからない。由緒書によれば、伊藤次郎左衛門家は3代祐蔵から5代祐寿まで茶屋町の町代を勤めているが、この後は町役人を勤めた記録はない。ただし、明治に入ってから明治5年(1872)5月に年寄役(のちの副戸長)に任じられているので、このとき町触を入手した可能性もある。ちなみに伊藤家は同年9月の大区小区制の成立にともない、第一大区の権区長に任じられ、さらに明治11年に名古屋区が成立すると茶屋町の戸長に選ばれている。

**公開資料の年代域** 元禄2年(1689)～安永3年(1774)

**点数** 78点 **製本冊数** 70冊

**公開資料の概要** 町触は町奉行所で制定・発令されるものが最も多く、町奉行所から惣町代を経由して各町へ書付の形式で伝達された。町の代表である町代は回ってきた触を書き写し次の町に回した。御触留帳はこの町代の書写した記録で

ある。  
全部で 78 綴にのぼり、元禄 2 年～安永 3 年のうち欠ける年があるものの、約 90 年間にわたり残っている。

内容は毎年時期を定めて発令される定例触と必要の都度交付される臨時触とがあった。

定例触のなかでは火の元取締の記載が頻出し、当時の社会でいかに火事が恐れられていたかがうかがえる。その他では、倭約、戸籍、祭礼、土木工事、奉公人の雇用、課税、犯罪者や家出人、行き倒れの探索などの記載が多い。いずれにしても町触の内容は当時の町人の生活のありようを伝える貴重な資料といえよう。

市史への掲載 資料編近世 I 第 2 章

資料名 岡崎家文書

資料番号 CP 084/001

所蔵者 個人蔵

歴史 近世文学の先駆的研究者であり、名古屋叢書の編集委員でもあった内田みゆき氏の実父で名古屋商科大学教授尾崎久弥氏（国文学者）が収集した資料。尾崎氏は浮世絵、江戸文学書の収集でも知られ、そのコレクションは名古屋市蓬左文庫で公開されている。

公開資料の年代域 近代

点数 26 点 製本冊数 1 冊

公開資料の概要 岡崎家の人にあてた書状で、年代は確定できないが、明治から大正頃のものと思われる。

資料名 岡谷鋼機株式会社資料

資料番号 CC 008/001

所蔵者 岡谷鋼機株式会社

歴史 岡谷家は、本来「笹屋」という名古屋でも有力な金物商で、明治 4 年（1871）近江商人小野組の名古屋支配人である村松彦七らとともに、名古屋で最初の株式会社として愛知七宝会社を設立した。七宝会社は輸出向けの良品の製造を督励し、万国博覧会をはじめとする博覧会へも積極的に出品、国内外での七宝の評価を高めた。

公開資料の年代域 明治 11～19 年頃

点数 100 点 製本冊数 10 冊

公開資料の概要 明治 16 年アムステルダムで開催された万国博覧会（植民地産物及一般輸出品博覧会）に関する資料である。七宝会社はこの万博に出品しており、日本の他の出品物のとりまとめ役も果たたとされる。博覧会の事務手続きや会場の配置図、売上明細帳、出品物の残品処分に関する資料がみられる。

市史への掲載 本文編 5 巻 第 3 章第 1 節

関連資料

- ・岡谷鋼機株式会社社史編纂委員会編『岡谷鋼機社史』（岡谷鋼機株式会社 平成 6 年 10 月）
- ・岡戸武平『鐵一筋（岡谷鋼機三百年の歩み）』（中部経済新聞社）昭和 43 年 11 月。
- ・名古屋市博物館編『名古屋市博物館調査研究報告Ⅲ 明治期博覧会出品七宝工総覧』（名古屋市博物館）平成 8 年 3 月。
- ・「岡谷惣助家（笹屋）資料Ⅱ」名古屋市博物館蔵（分類番号 501-91）

資料名 川伊藤家文書

資料番号 CP 003/01

所蔵者 個人蔵

公開資料の年代域 ※

点数 ※ 製本冊数 185 冊

※別冊名古屋市教育委員会作成（昭和 47 年（1972）3 月）『川伊藤家文書目録』参照

公開資料の概要 川伊藤家（伊藤忠左衛門）は、清須越しの代表的な御用達商人で除地衆と称されるようになった。資料は、新田経営や米穀会所・大豆印紙商仲買人に関する資料が多い。詳しくは昭和 47 年 3 月発行の名古屋市教育委員会作成『川伊藤家文書目録』に纏められている。

資料名 川伊藤家文書（追加分）

資料番号 CP 003/02

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 天明 ～ 明治

点数 1,564点 製本冊数 63冊

公開資料  
の概要 川伊藤家文書は昭和47年(1972)に名古屋市教育委員会により『川伊藤家文書目録』として紹介されたが、この追加分は当時に整理されなかった文書であり、新修名古屋市史編さんの際に追加整理されたものである。安政6年(1859)伊藤家の養子として入った吉文字屋惣兵衛家の商売や金融関係の資料が多い。

## 資料名 材惣木材資料

資料番号 CC 010/001

所蔵者 材惣木材株式会社

歴史 名古屋の材木業は名古屋城築城にはじまり、幕末に白鳥貯木場の藩木余剰材の直払いを受ける特権を持った株仲間(本組と称する)が再興されると、本組が払下げ材を一般材木商へ販売していた。明治に入り本組が自然消滅すると、明治10年(1877)に国による白鳥貯木場が開設、翌11年に白鳥貯木場の官材払下げが始まり、材木商は急速に増加した。

公開資料  
の年代域 明和4年(1767)～昭和4年(1929)

点数 274点 製本冊数 39冊

公開資料  
の概要 この資料は、名古屋元材木町の有力材木商、材木屋惣(惣)兵衛の鈴木家に残存する古文書・古記録である。内容は、店卸帳や勘定帳などを含む店関係のもの、龍門亭を含む家屋敷の絵図や事蹟調書などを含む鈴木家関係のもの、木材関係の報告書等の冊子類、の3つに分けられる。木材関係の報告書には、昭和6年以前の名古屋木材市場について振り返る座談会(昭和6年・8年開催)を記録したものもあり興味深い。

市史への掲載 本文編第5巻 第6章第2節

関連資料  
・『材惣三百年史—21世紀に向かって』(材惣木材株式会社、平成3年6月12日発行)の「八、鈴木家(材惣)文書目録」(132～148頁)には当該資料No.1～214までの目録が掲載さ

れている。

## 資料名 菅井家資料

資料番号 CP 058/001

所蔵者 個人蔵

歴史 菅井家は天保年間より明治末頃まで名古屋城下関鍛冶町において、信州の物産を取り扱う信州問屋を営んでおり、屋号を塩屋と称した。また近代には、田畑、借家を多く買入れ手広く不動産経営をも行った。

公開資料  
の年代域 天保年間～昭和

点数 4,668点 製本冊数 154冊

公開資料  
の概要 塩屋孫右衛門は天保7年(1836)信州問屋仲間塩屋甚八郎から屋号並びに株式を譲請、翌年8年商売を開始している。当初の業務内容は天保8年(1837)「商売筋取扱定法之事」に①信州・濃州・三州物産の仲買並小売への売捌、②牛馬止宿、③登り下りの荷物取次とされている。

売捌取扱品目は主に白木類・紙類・干物(立石柿や椎茸、くるみ)菓子類で明治3年(1870)までは麻苧布・薬種・苧など取扱いを休んでいる。また西国からの主な取次荷物は藍玉・さとう・ろうそく・畳表・綿・茶であった。

幕末(慶応元年と推定される)における「送り越候荷物並手入荷物一ヶ年商ひ高」では紙類が3290両、白木類が1168両、干物菓物が258両の4716両余りに上がっている。

孫右衛門は天保15年藩から信州荷物等取扱世話方、弘化4年信州産物世話方並口銭など締め方を申付けられ、慶応4年3月町奉行御用達格次座となり宗門自分一札を許されている。さらに明治元年12月には軍用金上納の見返りとして一代限途中御目見の格式を得ている。

明治に入り、4年信州産物通商会社創立に参加、肝煎となる。このころ筑摩県に名古屋県・愛知県からの御用状をも運んでいる。明治6年陸運元会社、8年内国通運会社信路取扱所となるが、13年信路掛を清算退社している。

一方、このあたりから土地・屋敷売買を積極的に行い土地経営に乗り出している。

明治20年代名古屋市長宛の売上金高届では、自らを諸国産商兼業乾物商・薬種商・材木商と称しているがその中でも材木の売上高の比重が大きくなりつつあることがわかる。ちなみに明治23年の名古屋商人長者番付によると前頭五十七の位置につけている。

そして、明治36年から営業内容が諸国物産業及び材木業と金銭貸附業となり、明治39年諸国物産業廃止届を提出、信州問屋として130年の歴史を閉じている。以後、しばらく材木商及び貸附業として商いをしていたようであ



るがいつまで続いたかは不明である。

## 資料名 橘町町有資料

資料番号 CO 015/001

所蔵者 橘町

**歴史** 橘町は、二代藩主光友が『古今集』の和歌にちなんで名付け、古鉄・古道具の専売特許を与えた町である。七代藩主宗春の代には、大須・若宮八幡の芝居小屋に隣接してにぎわった。

**公開資料の年代域** 江戸前期～昭和

**点数** 50点 **製本冊数** 1冊

**公開資料の概要** 寛文4年(1664)の光友の手による橘町の命名書のほか、寛文8年(1668)の古鉄の専売を認めた達書や古鉄・古道具の商売に関する願書・定書などがある。芝居興行についての資料も含まれている。

## 資料名 橘町西六組共有文書

資料番号 CO 016/001

**公開資料の年代域** 元治元年(1864)～昭和

**点数** 3点 **製本冊数** 3冊

**公開資料の概要** 嘉永3年(1850)5月13日に起こった火災が、経文の読誦により鎮火したことにちなみ毎年行われている「お日待ち会」の記録である。

## 資料名 筒井 稔氏所蔵 藤屋資料

資料番号 CP 082/010

所蔵者 個人蔵

役職など 町代／醸造業

**歴史** 藤屋(伊藤新左衛門家)は、遅くとも明和年間(1764～71年)には味噌屋を営み、天明から寛政頃(1781

～1801年)には大船町の町代をつとめていた。御勝手御用達格次座の家である。

**公開資料の年代域** 寛保年間～大正

**点数** 1,061点 **製本冊数** 11冊

**公開資料の概要** 江戸時代の資料が大半を占める。内容は、御勝手方御用達次座をつとめていたことから、調達金などの金融関係資料、町代であったことから大船町の町政に関する資料、家業及び家に関する資料に大きく分けられる。

金融関係の資料には、米切手金や調達金に関するものが多く含まれている。大船町の町政に関しては、藤屋芥舟(伊藤新左衛門)の町代役としての覚書である「町用私記」には五條橋通広井村四間道往還の水道が破損した時の普請の一件が詳しく書き留められている。家業の味噌屋に関する資料には、できあがった味噌の樽数や重量を表した貫目改の覚や大豆売買の覚等がある。味噌問屋仲間の「年行司」をつとめ、文化14年(1817)に塩問屋株を譲り受けている。

**関連資料** 前田義則氏所蔵 藤屋資料

## 資料名 前田義則氏所蔵 藤屋資料

資料番号 CP 067/002

所蔵者 個人蔵

役職など 町代／醸造業

**歴史** 藤屋(伊藤新左衛門家)は、遅くとも明和年間(1764～71年)には味噌屋を営み、天明から寛政頃(1781～1801年)には大船町の町代をつとめていた御勝手御用達格次座の家である。

**公開資料の年代域** 寛文5年(1665)～明治

**点数** 88点 **製本冊数** 2冊

**公開資料の概要** 内容は、おおむね3つに分けられる。

第一は、富くじを売って窮民救済の資金を集めた施行備講に関する資料である。「施行御備講仕法書」「寅年富札」は、年代が明記されていないが、慶応2・3年(1866・67)に、東懸所(現名古屋東別院)で行われた施行備講の資料と思われる。これにより、掛金額や当たりくじの内訳の詳細がわかる。講金上納に関する資料には御勝手御用達格次座の署名があり、講の成立や運営が御用達商人に依存してい

たことがうかがえる。

第二は、藤屋の家業や伊藤新左衛門家に関する資料である。藤屋芥舟の遺言書及び人別書上により、文政から文久年間（1818～64年）の藤屋の家族構成を知ることができる。また「巳年分残金取立」という資料からは、味噌問屋仲間の年行司が、仲間の商人が販売した味噌の代金の回収を命じ、請取書を提出させていたことがわかる。

なお、藤屋は、明治4年(1871)に「名古屋藩通商会社肝煎」を申し付けられている。

第三は、金融関係の資料である。川普請のための調達金差出に関する資料及び調達金請取に関する資料などがある。

関連資料 筒井稔氏所蔵 藤屋資料

## 熱田に関する資料

資料名 加藤千代子家資料

資料番号 CP 017/001

所蔵者 個人蔵

歴史 加藤佐助家は織豊期から続く熱田の豪商

公開資料の年代域 織豊期～大正

点数 356点 製本冊数 5冊

公開資料の概要 佐助家及び宗家、伝蔵家、彦三家など西加藤諸家を含む系譜(文書番号 5、65)、由緒書(文書番号 17)など家格に関する資料が主体。貞享4年(1687)から元禄元年(1688)にかけて実施された熱田検地に関する資料などがある。

## 村方に関する資料

資料名 慈雲寺所蔵 相羽式郎資料

資料番号 CO 029/001

所蔵者 慈雲寺

役職など 御目見御用懸医師

歴史 相羽式郎(～1889)は、漢方医で御目見御用

懸医師。

公開資料の年代域 江戸後期～明治

点数 705点 製本冊数 17冊

公開資料の概要 尾張藩の薬園経営の一端を垣間見ることができ、ほか、当時の医療事務に関する資料もある。

また、医学教育を行った相羽家の私塾学半館の資料や、明治に入って屋敷内に開設した競遊小学校の資料を通じて、相羽家の郷民教育の実態もわずかだが明らかとなっている。

ほかに、触書写がまとまって残されており、姉小路公知の暗殺や禁門の変、長州征伐など幕末の動乱を地方へ伝える資料がある。明治期のものでは、嫁いだ娘とその夫から実家に宛てた書状が多く残されている。

資料名 外山半三氏所蔵 熱田新田西組資料

資料番号 CP 022/003

所蔵者 個人蔵

公開資料の年代域 天保～大正8年

点数 304点 製本冊数 31冊

公開資料の概要 熱田新田西組(現 中川区・港区)の村方資料。

資料の年代は、天保14年(1843)から大正8年(1919)までだが近世のものは少なく、ほとんどが明治前期のものである。

資料は、作成者・受取人名から鬼頭寿三・松二家に伝来したと思われる。資料によると、寿三は明治4年頃に熱田新田西組組頭、7年からは副戸長、のちに戸長役場の用掛、12年から15年には戸長をつとめている。そして明治30年後半に当主が松二に代わっている。

所在は明治15年時、熱田新田西組310番邸、職業は医業となっているが、代々地主として土地経営に関わっていることが明らかである。

資料は鬼頭家のものと役目上鬼頭家に残された村資料の2つに大別される。

1. 家資料

\*嘉永6年から明治25年までの自家普請関係資料

\*年貢勘定帳や小作証券など土地経営資料

## 2. 村資料

### \*貢租関係資料

・文久4年から明治5年にいたる免割付  
・特に明治4・5年の租税諸帳簿が揃って残る(物成帳、庄屋通など)

・村費(下用)・民費・区費に関するもの

### \*地租改正関係資料

地位等級調記立会出勤帳や詮評入用記、地租金帳  
田畑畝歩書上帳など

### \*明治13年7月天皇巡幸準備資料

前ヶ須街道道路整備一件

また、戸長交代時の村方帳簿引継目録もある。

戸別生業並農業生産高調帳からは、明治初期の名古屋の農村の姿や農業生産の実態などが読みとれる。

## 資料名 大島秀基家文書(旧大島将男家文書)

資料番号 CP 071/001

所蔵者 個人蔵

**歴史** 現在の守山区小幡地域は、近世では春日井郡小幡村、尾張藩水野代官所支配下にあり、明治22年には東春日井郡小幡村、同39年には守山町小幡となった。大島家は水野代官所管下有数の豪農で、大島本家と分家(西大島家・東大島家と呼ばれる二家)とがあり、三家はともに小幡村及び旧東春日井郡で重きをなした。

### 公開資料

の年代域 明和6年(1769)～昭和

点数 3, 188点 製本冊数 611冊

### 公開資料

の概要 大島家の分家筋、西大島家の資料で、江戸の明和6年(1769)から昭和41年(1966)までの約200年間にわたる膨大な資料群である。西大島家は小幡村の庄屋を務めており、資料上では、「庄屋」「惣庄屋」「御蔵入庄屋」の肩書が付いている。また、その資金力から窮民救助や軍費調達などを行い、その功績によって苗字帯刀や宗門自分一札といった士分待遇を許されている。近代に入ってから、第三大区十五小区戸長や東春日井郡会議員・小幡村会議員・東春日井郡参事会員・徴兵参事員・守山町会議員などを務めており、地域を取りまとめる名望家を輩出する家柄であったといえる。このように西大島家が地域に果たした役割によって、この資料群には、御用留・御触留のほか、年貢・諸役銀・村役・下用勘定関係の帳面類などの村方資

料や、近代の地方自治制成立過程における町村議会・郡会・参事会の記録、議員選挙に係わる諸資料も多く、通信類、税制・徴兵制・教育・生業の許認可などもみられる。また、家関係資料としては、西大島家の質商、穀物・実綿商、木綿仲買、地主経営などの多角的な経済活動がうかがえる。また、日記覚帳・掟帳などの帳簿類や、近代になってから西大島家が開始した酒造・味噌・溜・醤油製造といった醸造業関係の資料も多く見られる。江戸期～昭和にかけての守山区小幡地域の村政はじめ、西大島家の土地経営・農業経営ほか、その地位・家業・家産をうかがうことができる重要な資料群といえよう。

なお、村方資料は初代仁右衛門が庄屋を務めた安永年間(1772-1781)以降のものが多く、基本はそれ以降に集積された資料群といえるが、それより古い内容のものとして、慶長13年(1608)に尾張藩で実施された慶長検地の小幡村の検地帳(写)が特筆される。写ではあるが、17世紀初頭の小幡村の様子をうかがうことができる貴重な資料と言える。

市史への掲載 資料編近世1 第3章第3節・第4節・第6節・第8節

※新修名古屋市史では、旧資料名「大島将男家文書」で掲載されている。

### 関連資料

・水野忠久家資料

・守山郷土史研究会『もりやま』第14号(平成7年)には、道木正信「資料紹介 大島将男家文書目録(小幡村)」・加藤英俊「慶長十三年春日井郡小幡村検地帳」が掲載されている。また、同誌第9号(平成2年)以降、御触留などの資料の翻刻が掲載されている。

『愛知県史』資料編の近世1では「名古屋市大島秀基家文書」として掲載されているが、近世9では「名古屋市西大島家文書」として掲載されている。

## 資料名 尾張藩三浦山三ヶ村山守文書

資料番号 CP 033/001

所蔵者 個人蔵

**歴史** 享保の林政改革により山守役となった内木彦彦は、美濃国恵那郡の三ヶ村(加子母村・付知村・川上村)の庄屋を勤め、裏木曾全山の管理を任された。

### 公開資料

の年代域 享保17年(1732)、安政3年(1856)

点 数 2点 製本冊数 1冊

**公開資料の概要** 内木家の資料で、安政3年(1856)に内木氏の由緒についてとりまとめた「安政三辰年 由緒調」と、享保17年(1732)に三浦山を見廻る際の詳細が書き付けられた「享保十七壬子天八月朔日 三浦山見廻袖日記」の2点である。

市史への掲載 資料編近世2 第1章第1節、本文編第3巻 第7章第1節

関連資料 『新修名古屋市史』資料編近世2 第1章第1節、口絵 図版12

## 資料名 桶狭間中組養蚕関係資料

資料番号 CP 061/001

所蔵者 個人蔵

**公開資料の年代域** 明治末 ～ 昭和前期

点 数 13点 製本冊数 3冊

**公開資料の概要** 知多郡桶狭間村における養蚕に関する資料。青山家の養蚕の過程を書留めた養蚕帳が、明治42年(1909)から昭和19年(1944)までほぼそろっている。

## 資料名 梶野渡家資料

資料番号 CP 023/001

所蔵者 個人蔵

**歴史** 梶野家は知多郡桶狭間村に住する旧家。

**公開資料の年代域** 江戸前期 ～ 昭和

点 数 228点 製本冊数 32冊

**公開資料の概要** 梶野家の先祖の名が見える慶長13年(1608)の御縄打帳(検地帳)のほか、元禄から文久まで(1688～1863年)の免定、文政から嘉永まで(1818～53年)の新田の検地帳・高成帳など近世の土地・貢租関係資料。享保2

0年(1735)に有松村の往還脇で起きた武士の自害事件に、桶廻間・有松両村の人々が駆り出された記録などがある。

近代のものでは、明治11年(1878)以降の共和村との合併・分離問題の関係資料がある。

## 資料名 加藤平右衛門家文書

資料番号 CP 082/009

所蔵者 個人蔵

役職など 庄屋・問屋

**歴史** 加藤平右衛門家は、鳴海村の庄屋と鳴海宿の間屋をつとめた家である。

**公開資料の年代域** 江戸初期 ～ 明治初期

点 数 170点 製本冊数 2冊

**公開資料の概要** 役職上、土地・家屋敷売買証文の写、借上金・調達金返済願書などの資料がある。

別家の佐次右衛門家のもも多く含まれている。

## 資料名 櫛田家資料

資料番号 CP 030/001

所蔵者 個人蔵

**歴史** 櫛田家は近世の清須宿において重要な役割を果たしており、主なものとして脇本陣に関する資料では、大名・公家等の通行、茶壺道中に関するもの、問屋関係では人馬継立、美濃海道清須町の助郷に関するものや土地経営に関する資料がある。近代以降においては、郵便業務にも携わり、地元の名士として西春日井郡長なども勤めていた。

**公開資料の年代域** 寛文 ～ 昭和

点 数 3,707点 製本冊数 420冊

**公開資料の概要** 櫛田家は近世の清須宿において重要な役割を果たしている。万治3年(1660)より「役儀代々相勤」とあるが、享保2年(1717)の「御鯨御用人足書上帳」(「清須宿脇本陣」の項)にみえる「清須宿問屋 櫛田源兵衛」(利秀)が

確認できるものの中ではもっとも古い記録である。

享和元年(1801)7月に同じく利壽が内輪において脇本陣を仰付けられている。これは前年(寛政12年)12月に脇本陣の1人半兵衛が困窮で勤められなくなったので跡役を仰付けられたいと願書を出して許されたものである。以後、利勝、利恭が脇本陣、問屋役を勤めるが、利恭の代には文政3年(1820)に神明町分庄屋役を、文政4年(1821)に年寄役を仰付けられ、以後4役を兼ねることとなる。さらに安政3年(1856)には利恭が村々惣代役も仰付けられ、これも兼務することになる。

身分的には明和6年(1769)に帯刀、寛政12年(1800)に苗字を利壽が許されて以後、代々苗字帯刀が継目の際許可されている(帯刀のみ先に許可されたのは不可解ではあるが、数点の願書に記載されている)。さらに利恭は天保9年(1838)に御目見、宗門自分一札が、天保14年(1843)に名披露御目見が、安政4年(1857)に尉寸目着用が許可されており、これらも以後許可されている。

近代においては利真が問屋業務からのつながりで郵便業務に携わり、地元の名士として西春日井郡長なども勤めている。

榑田家は寛政5年(1793)相続人ゑつの死亡により、けいの婿であった中島郡三宅村杉家当主八左衛門利勝が家督を継いだため、以後、杉家とのかかわりが深い。「杉家系図」によると利勝のあと利勝三男宅三郎が家督を継いだ、宅三郎の死後地頭(成瀬家)が絶家を許さず、利勝長男時次郎(榑田利恭)の名をもって一戸をたてたとある。一方、利勝、榑田相続につき長男時次郎をもって杉家相続人とすとある。宅三郎が大坂へ養子に行っていることから考えるとこちらのほうが正しいかもしれない。これ以後、榑田家当主は代々杉家当主(杉八左衛門)を兼ねることになるが、明治政府の地券取調に際し、榑田家と杉家を分立し、明治7年(1874)利真三男惣三郎を直次と改め、杉家を相続させている。

家に関する資料は系譜、相続、役儀に関するもの(約80点)のほか、万覚書・日記帳や奉公人請状の類がある。

万覚書・日記帳は約40点残されている。安永9年(1780)から弘化2年(1845)までの分は年代が続いていないが、嘉永元年(1848)12月の記載以降、明治30年代のものまで欠けることなく揃っている。形態は時代により異なるが、法事や家の祝い事、病気など家の出来事や役儀関係の出来事を日々記した日記部分と、金銭出入・田畑勘定・御休泊留・家賃勘定・日雇勘定等の覚書から構成されているものが多い。寛政6年(1794)の分が「清洲町史」に一部紹介されているが、長い年月にわたる分がのこされているので榑田家のことはもちろん当時の情勢を知るうえで重要な資料と考えられる。

奉公人請状の類は、杉家の分を含め30点ほど残されている。杉家の分は杉八左衛門利勝が榑田家を継ぐ以前のもので、中島郡三宅村近在から奉公人がきていることがわかる。また宛名のない分も含め、榑田家の分は、文化10年

(1813)から明治2年(1869)のものがあり、乳母を含めた奉公人は中島郡の村々の者が一番多く、他に春日井郡・海東郡の村々の者である。

他に興味深いものとして榑田家が薬の販売に携わっていたことを示す資料が10点ほどある。文化6年(1809)利勝から小児虫薬取次売願が出され許可されている。これは大坂の鈴木七左衛門(利勝の兄で宅三郎の養子先)が取扱っている薬についての取次売願である。

## 資料名 慶応四年・明治三年 鳴海村風水害資料

資料番号 CP 042/002

所蔵者 個人蔵

歴史 愛知郡鳴海村(現緑区)は尾張藩領で鳴海代官所支配。天白川・扇川・藤川の3川が流れ、流域の狭い平野に水田が開ける。扇川沿いに東海道の鳴海宿があり、伝統産業に鳴海絞がある。

公開資料  
の年代域 慶応4年(1868)5月～明治3年(1870)10月

点数 1点 製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 慶応4年(1868)から明治3年(1870)に鳴海村で起こった大雨による洪水等の被害状況の報告等を鳴海庄屋所が取りまとめたもの。慶応4年並明治3年の風水害による組別被害書上、損所見分や往還方取膳出人足・損所普請等諸願書、水冠腐苗追植数達書、倒家施物判取帳等被災に関する鳴海庄屋の諸事留等が一冊にまとめられている。慶応4年と明治3年には度重なる大雨や大風による被害を受けており、その被害状況や補修工事、下賜の様子等をうかがうことができる。

関連資料 愛知郡鳴海町役場資料(名古屋市博物館所蔵)に、「慶応四年辰五月八日出水ニ付不時普請所見分帳」(No.501)がある。

## 資料名 柴田孝明家資料

資料番号 CP 043/003

所蔵者 個人蔵

歴史 吉根村戸長

公開資料  
の年代域 明治後期 ～ 昭和初期

点 数 14点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 明治の行政村である吉根村・志談村の村政資料。  
「旧習改革案」などがある。

## 資料名 下飯田村資料

資料番号 CP 042/001

所蔵者 個人蔵

歴史 春日井郡下飯田村(現 北区)は尾張藩領で大代官所支配。村内を勝川街道(下街道)が通っている。明治13年(1880)からは西春日井郡の所属となり、同22年に六郷村の大字となる。大正10年(1921)には名古屋市東区下飯田町となり、昭和19年に北区下飯田町となる。

公開資料  
の年代域 江戸後期～大正

点 数 35点 製本冊数 6冊

公開資料  
の概要 この資料は江戸後期から明治・大正にかけての春日井郡下飯田村の地方文書である。天保10年から安政5年に至る迄の五人組帳や年貢取立帳、御用留など、村支配にかかわる資料が多い。その他、安政2年の早ばつ時に杉村との間に起きた大幸川北用水の水論についての和談取極や明治10年の荘内川分水路の潰地帳などの用水関係資料、時代が下って明治から大正にかけて行われた城東耕地整理事業に関する書類(No.21・22・38)も認められ、旧城下近郊の村の変遷を知る上で貴重な資料といえる。

市史への掲載 資料編近世1 第3章第4節

関連資料

- ・尾張国春日井郡下飯田村文書(徳川林政史研究所蔵)
- ・馬場勇「城東耕地整理組合と大幸川」(『もりやま』第16号、1997年、171～179頁)。
- ・馬場勇「資料紹介 城東耕地整理組合 事業報告書」(『もりやま』第24号、2005年、80～95頁)。

## 資料名 下郷家資料その他 宿場関係資料

資料番号 CP 067/001

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 江戸後期

点 数 8点 製本冊数 4冊

公開資料  
の概要 下郷次郎太作成の「諸願達留」(鳴海村、安政4年(1857))、鳴海宿の「進登御用人馬継立高書上帳」(慶応元年(1865))などがある。

## 資料名 筒井 稔氏所蔵 下郷家文書

資料番号 CP 082/008

所蔵者 個人蔵

役職など 愛知郡鳴海村(東海道鳴海宿)・愛知郡鳴海町・緑区鳴海町/鳴海宿村役人

歴史 下郷家は、愛知郡鳴海村(現 緑区)の宿村役人をつとめた家で、その一族は、農業や酒造業を営んでいた。本家筋にあたる下郷次郎八郎家は、江戸後期に鳴海宿の惣年寄をつとめた家で、分家筋の家も問屋や年寄、庄屋などをつとめている。分家筋では、弥兵衛家(柏木家)、善右衛門家(笹印家・喜多浦家)、四郎兵衛家(東店)、金兵衛家(金剛家)、保之介・秋之介家(乾家)、金三郎家(井岡家)などが挙げられる。

公開資料  
の年代域 江戸初期～明治

点 数 1666点 製本冊数 38冊

公開資料

の概要 次郎八郎本家のほか、保之介・秋之介家、善右衛門家、弥兵衛家の四家で資料が構成されている。このように二家以上の資料が混在して所蔵されている理由は現在のところ明らかではない。全体を通して江戸後期のものが多く、内容は、鳴海宿、酒造等家業、土地経営や年貢に関するもの、金融関係など多岐にわたっており、以下のように分類できる。

①本家

9代次郎八(六喫園、此汐ともよばれる)が当主の時期のものが多く、嘉永元年(1848)の問屋役交代に関する書付、紀州家の鳴海止宿に関する資料などのほか、酒造関係、金融関係の資料がある。

## ②保之介・秋之介家

四郎兵衛家から分かれた家で、保之介を初代とし、二代目が秋之介である。保之介と秋之介の代のものが大半を占め、宿方・村方の役職に関わる資料が多く、弘化4年(1847)から慶応元年(1865)にかけての役職の任免申付書、嘉永6年(1853)と文久3年(1863)の海岸守裁許方添役任免申付書などがある。

明治中頃の下郷保(秋之介の別名)の日記帳は「名古屋市市政資料館所蔵 下郷保家文書」を補う資料となる。

## ③善右衛門家

善右衛門家は本家に次いで酒造高の多い分家である。酒造関係も豊富で「大行司 下郷善右衛門」の名もしばしばみられる。

また、幕末から明治にかけての伝馬新田や水袋新田、又兵衛新田などの年貢勘定帳、掟米(小作米)帳などもまとまっている。

## ④弥兵衛家

年代の分かるものでは、文化年間(1805~17年)の資料が多く、年貢など租税についてのものや、小作に関するものがまとまっている。

弥兵衛家は鳴海村の庄屋をつとめており(植田村との兼帯庄屋をつとめた時期もある)、村政に関わる資料も含まれている。

また、文久元年(1861)の御用留など村政に関わる資料も含まれている。

関連資料 下郷家の文書は、本家分家を問わず様々な研究機関や個人に所蔵されている。「下郷家文書」(外山半三所蔵、『下郷家文書目録』新修名古屋市史報告書5、1999)は、本家次郎八家の文書である。「下郷家文書」(名古屋大学所蔵)は、次郎八本家の資料と考えられ、外山氏所蔵資料と補完関係にある。「尾張国愛知郡鳴海村下郷家文書」(関西大学、『関西大学所蔵 近世文書目録 その二』)は、次郎八本家、弥兵衛家、善右衛門家の三つの文書群からなる。

「尾張国愛知郡鳴海宿下郷家文書」(立教大学所蔵、「尾張国愛知郡鳴海宿下郷家文書」、『立教大学所蔵 愛知県関係文書目録』)も複数の家の資料が混在している。他に「愛知郡鳴海村下郷家資料 I・II」(名古屋博物館所蔵)などがある。また、名古屋市市政資料館所蔵の下郷保家文書は、この資料群の下郷保の日記帳と補完関係にある。

## 資料名 筒井稔氏所蔵 下郷家文書 (追加分)

資料番号 CP 082/014

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 享保 ~ 明治

点数 298点 製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 下郷家は、愛知郡鳴海村の宿村役人をつとめた家で、その一族は、農業や酒造業を営んでいた。筒井稔氏所蔵下郷家文書は平成15年度から公開しているが、平成27年度の公開資料は別途追加収集したもの。下郷家の分家である栢木家の土地経営の資料が多くある。

## 資料名 外山半三氏所蔵 下郷家文書

資料番号 CP 022/001

所蔵者 個人蔵

役職など 愛知郡鳴海村(東海道鳴海宿)・愛知郡鳴海町・緑区鳴海町/鳴海宿惣年寄

歴史 文化5年(1808)に提出したと思われる次郎八郎家の由緒書(外山半三氏所蔵下郷家文書 文書番号1105、立教大学所蔵下郷家文書 文書番号33)、文政4年(1821)作成の代々継目書上(筒井稔氏所蔵下郷家文書 文書番号58)によると、先祖は平氏の出で、紀州熊野浦の下里村や同山中色川という所に居住し、そのころから下里を名乗るようになったという。その後、孫太郎満村の代に下野国宇都宮辺に流浪、その倅藤八郎信重の代に徳川家康配下の本多中務大輔に仕えたという。倅次郎太夫信種も中務大輔に仕えたが病のため致仕し、伊勢国桑名へ居住し農業を営んだ。その倅弥兵衛種政が慶長2年(1597)に鳴海へ移ったとされる。

公開資料  
の年代域 江戸前期 ~ 昭和

点数 5,381点 製本冊数 83冊

公開資料  
の概要 資料は下郷本家のものと思われ、その多くは書状である。年代は宛名から7代勘左衛門(景雄)以降、江戸後期のものが目立つ。内容は多岐にわたるが、おおよそ以下のように分類できる。

### ①家に関するもの

系譜やお目見・扇子献上など家格に関するもの、日記、相続関係資料。

### ②経営に関するもの

・土地……新田開発願や小作証券、生産米の売買に関するものなどの農業経営の資料。江戸・大坂の借地・借家経営の資料がある。また、土地譲渡証文からは、4代五郎八(元雄)の元文から明和年間(1736~72年)に、積極的に土地を買い入れていることが分かる。

・商業……奉公人別帳、番頭就任・退役、店心得書、儉約改正定など江戸店運営に関する資料。

・酒造……酒樽積数書上、酒仕切など酒取引に関する資料。江戸店への酒送りやその過程で起こる「変酒一件」など鳴海と江戸との往復書簡など。

(土地・商業・酒造ともに帳簿類は少ない。)

#### ③金融に関するもの

借用証文と土地譲渡証文が多い。惣年寄という立場上、鳴海村や近隣の村への年貢納入のための貸し金が目立つ。尾張藩からの酒造のための拝借金の資料や青蓮院御用達であった下郷家が祠堂金を伊勢長島藩西外面村に村貸しし、その返済が滞って訴訟となった一件の資料もある。

#### ④鳴海村・宿に関するもの

宿伝馬を維持するため、代官などから経費の援助を得て、寛文12年(1672)に開発された鳴海伝馬新田の資料。幕末の通行に駆り出される人馬の「度数」をめぐる宿と助郷の争いを示す資料がまとまって残っている。

#### ⑤文化に関するもの

文化人との交流を示す書状や俳句・和歌・書画などの作品がある。

関連資料 『下郷家文書目録』(新修名古屋市史報告書5)が、この資料の詳細な解説を付して平成11年1月に刊行されている。

## 資料名 高針西山地区講関係資料

資料番号 CO 022/001

公開資料の年代域 嘉永～平成

点数 5点 製本冊数 5冊

公開資料の概要 高針村西山島若者連中記録帳。

## 資料名 高針新屋敷島資料

資料番号 CX 001/001

公開資料の年代域 明治30年代～昭和20年代

点数 33点 製本冊数 8冊

公開資料の概要 青年会議記録帳や祭礼費用帳など。青年会議記録帳、祭礼費用帳などがある。

## 資料名 高針東古谷棒之手保存会 所蔵資料

資料番号 CO 024/001

公開資料の年代域 嘉永～平成

点数 16点 製本冊数 1冊

## 資料名 永井士前家文書

資料番号 CP 082/001

所蔵者 個人蔵

歴史 愛知郡牛毛荒井村(現 南区)の豪農永井家の文書。永井家は、代々里正の職にあったとされる。士前は永井荷風と同族で、俳諧の指導者として知られている。

点数 101点 製本冊数 1冊

公開資料の概要 句集などが主。

## 資料名 名古屋新田地価仕出帳

資料番号 CP 069/001

所蔵者 個人蔵

公開資料の年代域 明治初期(明治5年(1872)～9年頃)

点数 4点 製本冊数 3冊

公開資料の概要 名古屋新田の地価仕出帳と人別改帳から成る。資料の年代域は、資料中の「第二大区六小区」の表記による。

関連資料 鶴舞中央図書館に名古屋新田庄屋小塚家の文書がある。



資料名 外山半三氏所蔵資料 鳴駅便覧

資料番号 CP 022/004

所蔵者 個人蔵

点数 1点 製本冊数 2冊

公開資料の概要 東海道鳴海宿の宿駅業務を行う上で日常的に参考とするために作られた手引書。高札・触書の写や諸通行の対応、役所への届出書類の雛形などが記されている。

関連資料 「筒井 稔氏所蔵下郷家文書」『下郷家文書目録』（新修名古屋市史報告書5）

資料名 鳴海宿関係資料

資料番号 CP 073/001

所蔵者 個人蔵

公開資料の年代域 天保9年（1838）～明治元年（1868）

点数 6点 製本冊数 1冊

公開資料の概要 宿役人による願達留、天皇東幸に際しての下調べや絵図（明治元年9月）がある。

市史への掲載 本文編第4巻 第7章第1節

資料名 長谷川文男家資料

資料番号 CP 080/001

所蔵者 個人蔵

歴史 志段村（現 守山区）は明治22年（1889）に、春日井郡の上志段味村・中志段味村・下志段味村・吉根村の4ヶ村が合併してできた村で、4大字の編成となった。同25年には上志段味が分離独立して上志段味村となり、志段村は3大字の編成となる。その後、同39年に志段村と上志段味村が合併して、再び4大字の編成となり、役場は下志段味に設置された。

公開資料の年代域 明治

点数 314点 製本冊数 15冊

公開資料の概要 明治時代の春日井郡役所諸記録綴や志談村村会議案、志段味村村会議案等の村関係資料が多い。また、地租改正による増税からの県に対する拝借金歎願書や濃尾大震災復旧土木工事に関する諸記録等もみられる。また、長谷川家の人々の使用教科書の類や、長じて志談尋常小学校や高間尋常小学校等で雇教員を勤めた庄太郎氏の試験問題例集・教材研究・指導案等の教育関係資料も多く残されている。

資料名 水野忠久家資料

資料番号 CP 056/001

所蔵者 個人蔵

歴史 小幡村庄屋

公開資料の年代域 慶長～明治

点数 62点 製本冊数 2冊

公開資料の概要 村支配に関する資料が主体で、慶長13年（1608）の小幡村検地帳（もと5帖の内の1帖）、免定、村送り一札、救米下し渡し一件などがある。

市史への掲載 本文編第3巻 第7章第1節・第3節

資料名 水野淳一家資料 I

資料番号 CP 055/001

所蔵者 個人蔵

公開資料の年代域 幕末～明治初期

点数 427点 製本冊数 24冊

歴史 水野家は、江戸時代に春日井郡杉村中杉（現 北区）の庄屋を勤めた家である。

公開資料の概要 市史編さんのために調査・整理を行った当時、

資料は、当主水野淳一家と名倉憲氏宅と二箇所に分かれて所蔵されていた。名倉憲氏は淳一氏の母そよ子氏（故人）と親交があり、北区の郷土史家であった。

名倉氏没後、資料は再び水野淳一氏のもとに所蔵されることとなり、こちらを「水野淳一家資料Ⅱ」とし、水野家に以前から所蔵されていたものを「水野淳一家資料Ⅰ」とした。「水野淳一家資料Ⅰ」で特筆すべきは幕末から明治初期の支配関係文書である。中でも、明治初期の触書類・幕末維新期の混乱した政治・経済情勢や対外関係を反映したもので、諸法令規則から貨幣流通・学校・工場関係、庶民生活の細部にわたる取り決めまで含まれている。また、明治政府による旧来の身分制の廃止、士族帰農商政策・秩禄処分に関連する資料もある。

つぎに、農業関係資料も多い。有志の者が「興農議會」という農会を結成し、農業に関する討論・種子や肥料の研究・他町村の農業の報告・肥料の共同購入をするなど、農業の改良進歩の為に励むことを謳っている。また、数多ある葉書の中には、名古屋地方裁判所へ「払い下げ代」として下肥代を納入していた際の領収証もある。

## 資料名 水野淳一家資料Ⅱ

資料番号 CP 055/002

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 幕末 ～ 明治初期

点数 206点 製本冊数 42冊

公開資料  
の概要 弘化4年(1847)の宗門改帳11冊ほか、文久3年(1863)の年別改帳も含まれている。また、近代の資料としては、明治35年(1902)の名古屋地方裁判所宛の「下肥入札」や昭和7年(1932)頃の城東高地整理組合の「第六工区杉村町換地説明書」等もある。

## 資料名 横地隆家文書

資料番号 CP 013/001

所蔵者 個人蔵

歴史 横地家は愛知郡下中村(現 中村区)の庄屋をつとめた家。

公開資料  
の年代域 慶応 ～ 明治

点数 2点 製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 宗門改帳と御布令願伺留書(諸届・訴状等の雛形集)

## 資料名 吉田家資料

資料番号 CP 025/001

所蔵者 個人蔵

歴史 吉田家は南陽村茶屋後新田(現 港区)に住する家。

公開資料  
の年代域 明治 ～ 昭和

点数 43点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 明治から昭和に至る米高書上や慶弔覚などがある。

## 資料名 引山西組所蔵資料

資料番号 CO 006/001

所蔵者 引山西組

公開資料  
の年代域 明治12年(1879)～昭和32年(1959)

点数 307点 製本冊数 16冊

公開資料  
の概要 この資料は、猪高村猪子石引山地区(現名東区引山)の引山西組が所蔵している資料で、若者組頭役が作成した帳面類を中心とした近現代の資料である。これらは内容から、①「迫会戸組事業日誌」等の一年間の組内の諸行事を記したもの、②通帳類、③組の経費勘定に関するもの、④参詣・祭礼関係のもの、⑤その他の文書、の大きく5つのグループに分けられる。若者組の活動の様子がうかがえる民俗学的にも重要な資料である。

関連資料 『新修名古屋市史 資料編民俗』第2部民俗調査資料編には、各項目で聞き書きによる民俗調査がまとめられており、「名東区引山」の状況も各項目に見られるため、

参照されたい。

## 社寺に関する資料

資料名 栄国寺資料

資料番号 CO 007/001

所蔵者 栄国寺

公開資料  
の年代域 天保～明治

点数 6点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 浄土宗西山派。文政5年(1808)の由緒書、明治20年(1887)の什物明細書、天保年間(1830～1844年)の借家請状がある。

資料名 熊野社資料

資料番号 CO 018/001

所蔵者 熊野社

公開資料  
の年代域 享保～昭和初期

点数 15点 製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 村方による祭田の耕作番付帳や神楽奉奏人覚帳など祭礼関係資料、大正・昭和の守山町大永寺支会青年団資料がある。

資料名 建中寺資料

資料番号 CO 019/002

所蔵者 建中寺

歴史 徳興山建中寺(現東区筒井1丁目)は、二代藩主光友が父義直の菩提を弔うために、慶安4年(1651)に建立した浄土宗鎮西派の寺院で、尾張徳川家の菩提寺となっている。

公開資料  
の年代域 江戸前期～昭和

点数 3, 454点 製本冊数 120冊

公開資料  
の概要 尾張徳川家の菩提寺という性格を有しているため、尾張徳川家の葬送・法事、御廟の供養に関する資料が中心となっている。式次第や手順、寺社奉行所との綿密な打ち合わせを内容とする往復書簡などからその規模や様子を知ることができる。

また、寺は、城内三の丸に存在した將軍家御霊屋の法事を名古屋東照宮別当尊寿院と共に取り仕切った。その法事や藩主参拝などの折に書かれた留書がある。

なお建中寺と尊寿院は、江戸時代、幕府や藩の慶弔の時に行われる恩赦の申請窓口となっていた。その関係上、赦免願や赦免状が残っている。ほかに寺務資料や寺領・門前の支配に関する資料も存在する。

また、本山末寺関係資料として配下の寺院の諸願・届を寺社奉行所に取り次ぐものや、本山である京都知恩院並びに僧録所(宗派の僧侶の登録や人事を管掌する)であった江戸の増上寺との往復書簡もある。

関連資料 尊寿院は、名古屋東照宮に付属する天台宗寺院で明治初期に廃寺となっている。

資料名 洲崎神社資料

資料番号 CO 032/001

所蔵者 洲崎神社

公開資料  
の年代域 寛文～明治

点数 268点 製本冊数 11冊

公開資料  
の概要 位記・口宣案や系図、勤書など神官永田氏関係資料、祝詞・祓・祭文、遷宮や芦流し一件など神事・祭礼関係資料、永田氏を含む十社家から吉見氏や寺社奉行所への願達書などがある。

資料名 善篤寺資料

資料番号 CO 049/001

所蔵者 善篤寺

**歴史** 善篤寺は、延宝4年(1676)、大光寺・万松寺とともに尾張藩の触頭寺院となった曹洞宗の寺

**公開資料の年代域** 元禄～明治

**点数** 26点 **製本冊数** 5冊

**公開資料の概要** 尾張藩の触頭寺院という役割上、末寺由来書や末寺からの願達留などある。

## 資料名 東照宮資料

**資料番号** CO 073/001

**所蔵者** 名古屋東照宮

**歴史** 名古屋の東照宮は、元和5年(1619)、初代藩主義直が名古屋城内三の丸に建立した。社領は千石で、尾張国の寺社の内で最も高い格式を持つ。

**公開資料の年代域** 慶長～昭和

**点数** 62点 **製本冊数** 8冊

**公開資料の概要** 由緒書や建物神宝明細帳などの記録類、『敬公実録』(義直の業績記録)、家康の『御年譜』『徳川氏御系譜』の写本など、慶長から寛政にいたる藩の覚書などがある。

## 資料名 那古野神社資料

**資料番号** CO 079/001

**所蔵者** 那古野神社

**歴史** 亀尾天王社または天王社ともいう。名古屋城内に位置し、城擁護の鎮守として崇められていた。神社に付属して真言宗亀尾山安養寺があり、天王坊とも呼ばれた。

**公開資料の年代域** 明暦～昭和

**点数** 37点 **製本冊数** 3冊

**公開資料の概要** 黒印状や印信類が多い。藩主から出された黒印

状は社領の安堵状である。また、社領であった名古屋村の延享3年(1746)の免定もみられる。

印信は、元禄16年(1703)から天保12年(1841)にわたるもので、住職が兼任していた熱田学頭医王院のものも含まれる。

戦災で所蔵資料の多くを焼失したという。

**利用条件** 複写禁止

## 資料名 普蔵寺関係資料

**資料番号** CP 082/013

**所蔵者** 個人蔵

**公開資料の年代域** 元禄～天保

**点数** 3点 **製本冊数** 1冊

**公開資料の概要** 寺送り状のみ。

## 資料名 泥江縣神社資料

**資料番号** CO 065/001

**所蔵者** 泥江縣神社

**公開資料の年代域** 宝暦～昭和

**点数** 21点 **製本冊数** 3冊

**公開資料の概要** 資料は由緒書や神社の明細書上帳の他に祭礼関係資料が存在している。

広井八幡宮の祭礼は神輿が西菅原町の白山社まで渡御する神幸があり、山車も引かれ盛大なものであった。傘鉾山車ノ図などが残る。門前町代から祭礼に際して安全のため庇下に挑灯を掲げたり、人々の参詣が衰えつつあることを歎く神主からの依頼で祭車を出すことなど、氏子と氏神の密接なつながりを示す資料もある。

また、近代に入ってから由緒書写や昭和10年名古屋市からの依頼による由緒調査に関する書類なども見られる。

なお、目録の文書番号8の御祭礼書下絵は徳川美術館所蔵森高雅筆東照宮祭礼図巻の下絵である。

## 資料名 正眼寺文書

資料番号 CO 045/001

所蔵者 正眼寺

**歴史** 名古屋市域の寺院に関わる触頭寺院として、曹洞宗の宗政機構では、上に天下大僧録として下総総寧寺・武蔵龍穩寺・下野大中寺の関三刹があり、下には全国に僧録50の寺が設置されていた。そのうちの一つが春日井郡三淵村（現 小牧市三ツ淵）の正眼寺で、寛永6年(1629)6月に関三刹のうち大中寺の配下として僧録に任命され、尾張藩領尾張・美濃国内の宗門寺院の統制を行うこととなった。

**公開資料の年代域** 延徳～昭和  
**製本冊数** 70冊

**公開資料の概要** 藩触頭寺院曹洞宗正眼寺に伝来の資料。宗門の統制寺院である関三刹との往復文書、並びに領国内の触下寺院からの差出文書など。【資料目録：71冊目】

#### ■お客様へ■

正眼寺文書は所蔵者のご意向により、学術研究機関に所属されている方の研究目的での閲覧に限らせて頂いております。また、複写もお断りしております。

資料名 成海神社資料

資料番号 CO 042/001

所蔵者 成海神社

**歴史** 成海神社は近世には東宮明神と言われた延喜式内社である。

**公開資料の年代域** 寛永～明治

**点数** 78点 **製本冊数** 4冊

**公開資料の概要** 近世から明治初めにかけての古文書類。

#### 1. 社務資料

遷宮に関する諸記録がまとまって残っている他、口宣案・宣旨書写（神主牧野氏と熱田社人松岡真人宛）もある。また明治6年（1873）の社寺除地絵図面では近代の愛知郡の神社領の様相が明らかになっている。

#### 2. 社人関係資料

京都の吉田家から出された宗源宣旨や下知書、継目相続に関しての神主牧野氏と吉田家重臣鈴鹿氏との往復書簡が見られる。

#### 3. 俳諧資料

鳴海村の有力者下郷家からその著作である「千鳥掛」、「誹諧次韻」が奉納されて、今に残されている。

資料名 宝泉寺資料

資料番号 CO 093/001

所蔵者 宝泉寺

**歴史** 旧東海道戸田村（現 中川区）の宝泉寺は、西照寺や浄賢寺と同じく名古屋城下大津町（現 中区）勝鬘寺末の浄土真宗大谷派の寺である。宝泉寺の住職が留守の時は、その寺務御用は西照寺が代って行うなど、この三つの寺は密接なつながりを持っていた。

**公開資料の年代域** 江戸～明治

**製本冊数** 10冊

**公開資料の概要** 資料は江戸から明治にかけてのものである。

本山との関係資料としては、継目出仕など各種御免印書や御坊からの上納金受取書等がある。また、お寺に関するものとしては、由緒書・略縁起・什物帳・住職書上等があり、寺社奉行所に宛てた願達や届書の控も多い。また、檀家からの弔い依頼状も多数残されている。その他、教導職関係の書類もある。

資料名 西照寺資料

資料番号 CO 047/001

所蔵者 西照寺

**歴史** 旧海東郡戸田村（現 中川区）の慈光山西照寺は名古屋城下大津町（現 中区）勝鬘寺下の浄土真宗大谷派の寺である。

**公開資料の年代域** 江戸～明治

製本冊数 5冊

#### 公開資料

**の概要** 資料は近世文書が主で、そのほとんどが本山並びに名古屋御坊（真宗大谷派名古屋別院）から差し出されたものである。西照寺宛の資料は、各種印書やその礼として寺が納めた上納金の受領書などが多く、隠居手続取計いなど具体的な寺務手数料の受領書や御坊からの説教許状もある。また、西照寺から寺社奉行所へ提出された願書や届の控も残る。他に、地域の信徒からも本山への志納金が出されていたようで、「戸田村二之割同行」や「二之割女人講」宛の志納金受領書も残されている。

なお、中島郡荻安賀村専養寺の資料も含まれている。

### 資料名 性高院資料

資料番号 CO 041/001

所蔵者 性高院

**歴史** 性高院は浄土宗の寺院で、松平忠吉の菩提寺である。松平忠吉は徳川家康の四男で、慶長5年（1600）関ヶ原での功により同年尾張国清洲を領したが、慶長12年（1607）江戸への参勤の帰途28歳で病死し、嫡子がなかったため没後改易となった。代わりに清須城へ入った弟の義直は、尾張徳川家の祖となっている。性高院は、天正17年（1589）に死去した忠吉の生母、宝台院西郷局のために正覚寺（武蔵国埼玉郡忍庄持田村）を建立したことに始まるとされる。同寺は慶長8年（1603）に清須に移り、同12年に死去した忠吉（法名性高院殿憲英玄白）の菩提所となって改称し、同15年の清須越で門前町（現名古屋市中区）に移転した。その後、昭和初年に現名古屋大学に近い鏡池の西側（千種区）に移り、さらに現在地へ移転したが、同20年の戦災を受けて焼失し、昔の面影は失われた。

#### 公開資料

**の年代域** 慶長6年（1601）～天保

点数 3点 製本冊数 1冊

#### 公開資料

**の概要** 松平忠吉の菩提寺である性高院の資料で、性高院及びその塔頭の称名院・一行院の由緒書（No.2）、[什物・修履記録書上]（No.1）、松平忠吉朱印状の知行方目録（No.3）の3点からなる。由緒書（No.2）は文政5年（1822）に寺社奉行へ提出されたものの控えで、その由緒及びその格式を物語る同院所有の証文や寺宝・什物、歴代住職の略歴や尾張徳川家及び関係者の位牌所としての経緯・寄附の詳細などを書き上げている。その中には「性高院様御伝記」と題される松平忠吉の伝記（松平義行著）の写し書きも見られる。[什物・修履記録書上]（No.1）は天保8～14年（1837

～1843）頃に性高院の第34世住職である大蓮社根誉海乗上人によって記されたものと考えられ、古い棟札や重要証文の写書、根誉上人の代で揃えた什物及び寺堂修復・建設の覚書などが書き上げられている。性高院は昭和20年に戦災のため焼失しているため、これらの資料は、かつての什物や寺堂の様子をうかがうことができる貴重な資料である。松平忠吉の慶長6年（1601）5月朔日付知行方目録（No.3）については、同院宛ではなく大村久六宛に発給された文書であり、由緒書（No.2）にも同院所有の朱印状として取り上げられていないことから、同院に伝来したものではなく、松平忠吉の縁故にひかれて後に収集されたものと思われる。

### 資料名 片山八幡神社資料

資料番号 CO 092/001

所蔵者 片山八幡神社

**歴史** 片山八幡神社（東区）は、大曾根八幡ともよばれ、社伝によれば第26代継体天皇五辛卯年に尾張国山田郡片山郷（現在の社地）に鎮座したとされる。戦国時代の戦禍をうけて頽廃し、一時熱田神宮に預けられたが、元禄8年（1695）尾張2代藩主光友（瑞龍公）によって社殿が造営され、それ以降、名古屋鬼門の鎮護の祈願所として整えられた。明治初年、布達によって八幡社と改称し、明治5年（1872）村社に列格、同41年（1908）10月26日指定村社となる。昭和4年（1929）9月17日に県社に昇格し、翌5年に「片山八幡神社」への社名変更が許可される。境内の大改造がなされるも、同20年4月、5月の空襲により境内林をはじめ社殿は悉く焼失した。同32年に隣接の神明社を合祀し社殿の復興造営に同34年に竣工し、同49年社務所が建設された。

#### 公開資料

**の年代域** 大正～昭和

点数 2点 製本冊数 2冊

#### 公開資料

**の概要** 片山八幡神社は、明治初年の布達によって「八幡社」と号すようになり、同5年には村社、同41年には指定村社となっていた。昭和4年に県社への昇格申請がなされ、翌5年に「片山八幡神社」への改称を願い出ている。その際に作成されたのがNo.1の資料で、「県社列格申請」「県社列格申請証拠書類」「神社名変更願」と題される表紙を持つ3群の書類束と、申請書類準備のために集められた個別の諸資料及び申請の結果として得られた内務省からの県社昇格の通達や愛知県知事からの神社名改称許可が1冊に綴り込まれている。

## 愛知県・名古屋市域に関する近代資料

### 資料名 愛知県管内新旧市町村分 合改称録

資料番号 【行政資料番号】 M Z 22 272

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 明治22年(1889)

点数 1点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 明治22年の市町村制施行後の愛知県内の市町村の新旧市町村を示したもの。

### 資料名 愛知県下町村名覧

資料番号 【行政資料番号】 M Z 12 273

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 明治12年(1879)

点数 1点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 区画改正後の新町名を示したもの。

### 資料名 御布達留

資料番号 CP 031/001

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 明治6年(1873)1月～明治7年(1874)1月

点数 1点 製本冊数 8冊

公開資料  
の概要 愛知県から発せられた布達をまとめたもの。布達の大部分は明治6年(1873)のものである。収録されている布達の年代の並びから大きく8つほどに区分され、内

容ごとのまとめり(学務・勸業・寺社・軍事・警察等)がうかがえるものもある。役所内の各課に保存されていたものを1冊にまとめたものか。

### 資料名 中村区郷土資料

資料番号 CP 012/001

所蔵者 個人蔵

公開資料  
の年代域 昭和7年(1932)～昭和22年(1947)

点数 57点 製本冊数 4冊

公開資料  
の概要 この資料は、昭和18年頃に中村区下中村町北郷中北部町内会会長が所蔵していたものを個人が譲り受けたもので、中村パラダイス遊園地関係の資料と、中村区下中村町北郷中北部町内会関係の資料の2つに大別される。

中村パラダイス遊園地は、多摩川遊園地(浅草)や宝塚新世界(大阪)に匹敵する遊園地として名古屋土地(株)が企画したもので、中村公園に隣接した会場には温泉や塔を備える。塔は総鉄骨の組立式で250尺(約75メートル 英国国会議事堂と同じ高さ)あり、当時の日本一を誇った。開園予定は昭和3年10月1日とある(No.6～No.7)。この遊園地の規模については影観図(No.11、No.15)や新築工事平面図(No.12、No.14)がある。

町内会の資料としては昭和18～22年頃の領収書や請求書など、金銭に関連したものが大半を占めている。戦時中でもあり、予算差引簿(No.17)や請求書等級(No.28)には、町内会費の他に軍人後援会費や防空防衛費、予科練入隊壮行会費等がある。この町内会については『新修名古屋市史第六巻』にその組織や役割等が書かれているので参照されたい。

関連資料 横地清『尾張中村雑考』(郷土文化)、横地清『中村区歴史余話』(愛知県郷土資料刊行会)、『中村区の歴史』(愛知県郷土資料刊行会)

## 刊行物等

### 資料名 新愛知新聞

資料番号 【行政資料番号】 09 M Z 21 059 ほか

所蔵者 中日新聞社

公開資料  
の年代域 明治21年(1888)7月～明治37年(1904)12

月、昭和15年1月(1940)～昭和17年(1942)8月

製本冊数 86冊

**公開資料の概要** 新愛知新聞は、明治21年(1888)7月5日、自由党の闘士であった大島宇吉らの経営により愛知社から発行された日刊紙。昭和17年(1942)9月1日、国策による一県一紙原則の新聞統合により、憲政会系紙である『名古屋新聞』と統合、『中部日本新聞』(現、『中日新聞』)となった。

資料名 中部日本新聞

資料番号 【行政資料番号】09 S1 Z17 ほか

所蔵者 中日新聞社

**公開資料の年代域** 昭和17年(1942)～26年(1951)

製本冊数 35冊

**公開資料の概要** 政府の新聞統制により『新愛知新聞』と『名古屋新聞』を合併して昭和17年に創刊した。

資料名 名古屋新聞

資料番号 【行政資料番号】09 MZ39118 ほか

所蔵者 中日新聞社

**公開資料の年代域** 明治39年(1906)～昭和17年(1942)

製本冊数 385冊

**公開資料の概要** 明治39年(1906)11月3日、大阪朝日新聞社名古屋通信部主任、小山松壽が『中京新報』を譲り受け改題、発行した日刊紙。大正13年(1924)4月からは夕刊も発行した。小山と同郷の友人、與良松三郎が主幹として加わり、小山が政界に進出すると社務を分担した。憲政会系紙として政友会系の『新愛知新聞』と愛知県会、名古屋市会を二分して対立、実際の政治的・社会的運動にも及ぶ競争を繰り広げるようになる。昭和17年(1942)9月1日、国策による一県一紙原則の新聞統合により『新愛知新聞』と統合『中

部日本新聞』(現、『中日新聞』)となる。

## 和本等

資料名 香道関係資料

資料番号 CO121/001

所蔵者 個人蔵

**歴史** 香道は香木をたいて香りを楽しみ香木の名を当てる伝統の芸道であり、現在伝わっている香道は、御家流と志野流の二流のみである。このうちの志野流は、江戸期に尾張を中心にして展開し、藩士から町人へと広がった。

**公開資料の年代域** 江戸時代以降

点数: 6点

製本冊数: 3冊

**公開資料の概要** 志野流の香道書。内4点には「右当流本書之写相違無之もの也」等の奥書があり、志野流本書の写しであることがうかがえる。種々の香木をたいてその匂いをかぎ、香の名を言い当てる組香の手順を示した聞書5点と香の名を書き上げた香銘集1点からなる。

市史への掲載

- ・資料編近世3 第4章第4節
- ・本文編第4巻 第8章第4節

資料名 常磐津関係資料

資料番号 CP102/001・002

所蔵者 個人蔵

**歴史** 幕末から昭和の初めにかけての名古屋において、浄瑠璃の一流派である常磐津節が隆盛していた。その中心は、常磐津岸沢派の初代岸沢式治(玉沢屋)の一門が担っていた。名古屋で行われてきた常磐津曲の多くは、常磐津家元のものとは異なる名古屋独自のものであり、玉沢屋版常磐津節正本として伝わっている。

**公開資料の年代域** 慶応4年(1868)閏4月出版、安政5年(1858)



9月出版

点数： 3点

製本冊数： 1冊

#### 公開資料

**の概要** 浄瑠璃の玉沢屋版常磐津節正本『茲木曾山雪宮本』（上巻・下巻）と『丹前の名古屋帯』である。『茲木曾山雪宮本』は慶応4年（1868）閏4月に出版され、『丹前の名古屋帯』は安政5年（1858）9月に出版された。いずれも常磐津岸沢派初代式治の作品で、名古屋独自のものである。

#### 市史への掲載

- ・資料編近世3 第4章第4節
- ・本文編第4巻 第8章第4節3

#### 関連資料

新修名古屋市史資料編近世3には常磐津関係資料として、『宮八景』が収録されている。

資料名 菅井家和本

資料番号 CP 058/002

所蔵者 個人蔵

**歴史** 菅井家（南区鳥山町）は天保年間より明治末頃まで名古屋城下関鍛冶町において、信州の物産を取り扱う信州問屋を営んでおり、屋号を塩屋と称した。同家が伝来・所蔵してきた古文書等の資料については菅井家資料（CP058/001）を参照のこと。

公開資料  
の年代域 寛政～明治

点数 40点 製本冊数 15冊

#### 公開資料

**の概要** 菅井家が所蔵する和本。「立表測景暦日諺解」1冊、「方鑑精義大成」1冊、「校正王代一覽」3冊、「校正王代一覽後編」6冊、「百人一首一夕話」9冊、「古今類句」20冊からなる総数40冊。ほとんどが和綴の刊本であるが、「方鑑精義大成」のみ手書きの写本である。

関連資料 菅井家資料（CP058/001）

## 各機関所蔵資料（名古屋市博物館を除く）

大学図書館等の機関（名古屋市博物館を除く）が所蔵する資料の複製です。複写等の利用に当たって、所蔵者から許可を得るなどの条件が付加されているものがあります。

### 武家に関する資料

資料名 北海道立文書館所蔵

明治十一年

愛知県士族移住事件

資料番号 CLP 01/002

所蔵者 北海道立文書館

公開資料  
の年代域 明治11年（1878）～

点数 1点 製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 尾張藩士族の北海道（八雲）移住について尾張徳川家から開拓使へ提出された書類の綴り。本簿冊にまとめられているのは、開拓使東京出張所で取り扱われた書類である。

市史への掲載 資料編近代1、第5章第1節

利用条件 複写禁止

関連資料 徳川林政史研究所に「八雲史料」がある。

資料名 北海道立文書館所蔵

明治十一年ヨリ

愛知県士族遊楽部移住書類

資料番号 CLP 01/003

所蔵者 北海道立文書館

公開資料  
の年代域 明治11年（1878）～

点数 1点 製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 尾張藩士族の北海道（八雲）移住について尾張徳川家から開拓使へ提出された書類の綴り。本簿冊にまとめられているのは、開拓使函館支庁で取り扱われた書類で、開拓使東京出張所からの回覧分も含まれる。

利用条件 複写禁止

関連資料 徳川林政史研究所に「八雲史料」がある。

### 藩政に関する資料

資料名 名古屋市市政資料館所蔵

尾張藩分限帳

資料番号 AANCA/035

所蔵者 名古屋市市政資料館

歴史 自由民権運動の研究者であった日比野元彦氏（東海高等学校教諭）からの寄贈資料。日比野氏は、新修名古屋市史（第6巻、第7巻）の執筆者でもある。

公開資料  
の年代域 江戸後期

点数 2点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 天保年間（1830～48年）に成立したと思われる下級武士の分限帳ほか1点がある。

資料名 徳川林政史研究所所蔵 藩士名寄

資料番号 CO 78/008

所蔵者 徳川林政史研究所

公開資料の年代域 江戸中期～明治

点数 45点 製本冊数 92冊

公開資料の概要 尾張徳川家に仕えた藩士の名前、勤め書(履歴)等を記した基本的な資料。尾張藩士の家系・略歴を調べる場合「士林浜廻」と同様に基本的な資料とされる。

江戸時代中期以降、特に天保期(1830～44年)以降の人物名が多い。

利用条件 複写には所蔵者の許可が必要

関連資料の所在 名古屋市蓬左文庫発行の『蓬左』第20号(1984年)に、「稿本藩士名寄」について、蟹江和子氏による「藩士名寄」の解題がある。

## 町方に関する資料

資料名 名古屋市市政資料館所蔵  
森井家資料

資料番号 AANCA/041

所蔵者 名古屋市市政資料館

歴史 森井家は代々山形屋半兵衛と称し、名古屋城下和泉町(現中区丸の内)において綿布、特に絞を取扱う商家であった。明治2年名古屋藩が国産会所を設立した折、服部与右衛門と共に国産絞の国産係を命じられている。

公開資料の年代域 嘉永～昭和

点数 738点 製本冊数 34冊

公開資料の概要 江戸末期の嘉永から昭和に渡る森井家の店関係資料で、そのほとんどは明治のものである。店卸勘定帳や金銭出入帳などの店の経営がわかる資料のほか、木綿の入手や染物屋とのやり取りの資料からは国産絞りの製造過程がうかがえる。また、取引先(東京方面と京都・大坂方面)からの注文や出荷に関する資料も多い。東京には森井の店のものが常駐しており、市況や得意先の要望などを随時名古屋の本店に伝えている資料もある。戦前の名古屋の綿、

特に絞製品の製造・流通ルートを辿ることができる資料群といえる。

関連資料

・『名古屋市史産業編』大正4年10月、第2期第2章第3節(148～149頁)

・『新修名古屋市史だよりNo.3』平成5年3月、「国産絞と森井半兵衛」(8頁)

## 村方に関する資料

資料名 立教大学所蔵

尾張国海東郡戸田村文書

資料番号 CO 115/002

所蔵者 立教大学

公開資料の年代域 江戸後期

点数 15点 製本冊数 2冊

公開資料の概要 文化～慶応3年(1867)の御用留、物成請取などから成る。

利用条件 複写禁止

資料名 立教大学所蔵 下郷家文書

資料番号 CO 115/001

所蔵者 立教大学

所蔵機関での名称 尾張国愛知郡鳴海宿下郷家文書

公開資料の年代域 江戸後期

点数 106点 製本冊数 13冊

公開資料の概要 被官百姓についての資料、酒造関係資料、長島金談一件に関する資料などから成る。

利用条件 複写禁止

**関連資料** 下郷家文書は、本分家を問わず現在様々な研究機関や個人に所蔵されている。所蔵の内、主要なものは『下郷家文書目録』（新修名古屋市史報告書5 1999年）に詳しいので、参考にされたい。

資料名 名古屋市市政資料館所蔵

## 下郷保家文書

資料番号 AANCA/0036

所蔵者 名古屋市市政資料館

**歴史** 保之介・秋之介家は、四郎兵衛家から分かれた家で、保之介を初代とし、二代目が秋之介である。保は2代秋之介の別名である。

点数 11点 製本冊数 1冊

**公開資料の概要** 時代は明治時代に限られ、内容にまとまったものはない。明治6年(1873)の地価仕出帳、明治13年(1880)の下郷徳雄宛 愛知郡御用掛任命状などがある。

**関連資料** 「筒井 稔氏所蔵下郷家文書」と補完関係にある。『下郷家文書目録』（新修名古屋市史報告書5）

資料名 名古屋市市政資料館所蔵

## 製茶関係資料

資料番号 AANCA/018

所蔵者 名古屋市市政資料館

**歴史** 名古屋の近世城下町研究者、早川秋子氏（近世法学者）からの寄贈。早川氏は、新修名古屋市史（第3巻、資料編 近世1）の執筆者でもある。

**公開資料の年代域** 明治～大正

点数 5点 製本冊数 1冊

**公開資料の概要** 味鋤原新田日進園高木氏の「明治一七年製茶日誌」「玉露代金書上帳」などがある。

## 資料名 名古屋史料研究所所蔵資料

資料番号 CP 092/001

所蔵者 名古屋史料研究所

**公開資料の年代域** 寛文～明治

点数 567点 製本冊数 47冊

**公開資料の概要** 本資料は寛文期から明治期までの多様な資料から構成されており、名古屋新田関係資料、飛島新田関係資料、小栗新田関係資料、海西郡善太新田検地帳、海西郡两国村関係資料、海西郡下の村々の絵図、愛知県海東郡（第6大区10小区）関係資料、下三ツ木村の定免勘定帳、三重県安濃郡野田村・半田村の野取絵図帳、中嶋郡松下村鈴木庄右衛門関係資料、下郷寛（学海）の作品群などがみられる。

**関連資料** ・青木忠夫氏「史料紹介「名古屋新田寛文御用留」」（『東邦学誌』第23巻1号 1994年12月所収、『もりやま』第29号 2010年、97～119頁に再掲）。

## 愛知県・名古屋地域に関する近代資料

資料名 国立公文書館所蔵

## 内閣文庫・愛知県史料

資料番号 【行政資料番号】MB 048 ほか

所蔵者 国立公文書館

**公開資料の年代域** 明治7年(1874)～明治18年(1885)頃

製本冊数 22冊

**公開資料の概要** 明治政府は明治7年(1874)11月に各府県に対して、沿革や諸制度・事蹟等を編さんし提出するよう求めた。提出された稿本は後に「府県史料」と名称を改め、現

在は国立公文書館内閣文庫に所蔵されている。愛知県史料はこの「府県史料」内の愛知県分で、明治初期の状況がうかがえる基礎資料である。

資料名 西尾市岩瀬文庫所蔵

## 愛知県勢事蹟

資料番号 CO 048/001

所蔵者 西尾市岩瀬文庫

所蔵機関  
での名称 愛知県勢事蹟 函番号 (146-12)

公開資料  
の年代域 明治16年(1883)頃

点 数 1点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 明治16年頃の愛知県内の諸状況を調査した資料。

利用条件 複写禁止

市史へ  
の掲載 資料編近代1 第5章第1節、第3節

## 資料名 愛知県布達索引

資料番号 【行政資料番号】MZ 16 270 ほか

所蔵者 愛知県公文書館

公開資料  
の年代域 明治15年(1882)12月、明治16年(1883)1月-17年(1884)6月、明治17年7月-18年(1885)12月

製本冊数 2冊

公開資料  
の概要 明治17年(1884)~19年(1886)に愛知県士族の村木鶴次郎が編纂・出版した愛知県布達の索引。愛知県の出した布達を18部門(皇上・官制・条規・教法・税法・地理・郵便津港・学事・兵事・勸業・衛生・会計・民法・商法・訴訟法・刑法・治罪法・外国交際雑事)に大別、種

目を小別して、発令年月日、文書番号、布達の要領を掲載する。明治4年9月~明治8年12月発令分を収録する。

資料名 野田史料館所蔵

## 愛知県令訓類集

資料番号 【行政資料番号】MB 30 070 ほか

所蔵者 野田史料館

公開資料  
の年代域 明治30年(1897)~明治37年(1904)発行

製本冊数 18冊

公開資料  
の概要 愛知県が事務の参考とするために、愛知県令・訓令及び必要な告示を編纂した現行法令集。議会・郡市町村・褒賞・教育・土木・学事・戸籍・兵事・社寺・財政・農工商・地理・気象・警察・衛生・監獄・報告等の項目に分けて編纂されている。

資料名 名古屋市市政資料館所蔵

## 改正町名録

資料番号 【行政資料番号】MZ 4 215

所蔵者 名古屋市市政資料館

公開資料  
の年代域 明治4年(1871)

点 数 1点 製本冊数 1枚

公開資料  
の概要 明治4年の戸籍区設置の様子がわかる資料。町名のなかった武家町に町名が付されている様子がわかる。

市史へ  
の掲載 資料編近代1 第1章第2節

資料名 西尾市岩瀬文庫所蔵

## 名古屋市域調

資料番号 【行政資料番号】MB 22 088

所蔵者 西尾市岩瀬文庫

所蔵機関  
での名称 名古屋市域調 函番号 (136-42)

公開資料  
の年代域 明治22年(1889)頃

点 数 1点 製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 明治22年の市町村制施行前の名古屋市の状況を調べたもの。部分的に施行後の情報が付加されている。

利用条件 複写禁止

市史へ  
の掲載 資料編近代1 第4章第1節

資料名 繪入黄金新聞

資料番号 【行政資料番号】09 M Z 19 161

所蔵者 東京大学大学院

製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 明治19年(1886)3月1日創刊。  
明治19年4月~7月(欠号あり)

資料名 金城たよ里

資料番号 【行政資料番号】09 M Z 20 154 ほか

所蔵者 東京大学大学院

製本冊数 7冊

公開資料  
の概要 金城新報社が一般大衆を対象に明治19年(1886)3月から発行した新聞。  
明治20年(1887)4月~12月、明治21年(1888)1月~9月、明治22年(1889)4月~6月(欠号あり)

## 刊行物等

資料名 愛岐日報

資料番号 【行政資料番号】09 M Z 27 162

所蔵者 東京大学大学院

製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 愛知日報が岐阜に支局を設け『愛知日報』(明治9年(1876)8月、隔日刊)を11月13日付(41号)から改題。  
明治12年(1879)、14年(1881)、15年(1882)、17年(1884)(欠号あり)

資料名 金城大和新聞

資料番号 【行政資料番号】09 M Z 27 162

所蔵者 東京大学大学院

製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 明治26年(1893)2月発行。  
明治26年(1893)6月、7月、9月、11月、明治27年(1894)1~4月、9月、11月(欠号あり)

資料名 愛知新報

資料番号 【行政資料番号】09 M Z 22 152

所蔵者 東京大学大学院

製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 報文社が明治22年(1889)9月に創刊。  
明治22年12月、明治23年(1890)1月~3月(欠号あり)

資料名 黄金新聞

資料番号 【行政資料番号】09 M Z 18 153

所蔵者 東京大学大学院

製本冊数 1冊

**公開資料の概要** 名古屋新聞発行の自由党系新聞『愛知自由燈』が発行停止処分を受けたため、改題。明治17年(1884)12月から発行。  
明治18年(1885)3月、6月、9月、11月、明治19年(1886)1月(欠号あり)

資料名 自由新聞

資料番号 【行政資料番号】09 M Z 27 162

所蔵者 東京大学大学院

製本冊数 1冊

**公開資料の概要** 明治15年(1882)6月25日創刊。  
明治15年～18年(1885)(欠号あり)

資料名 農民

資料番号 【行政資料番号】09 M Z 23 163 ほか

所蔵者 東京大学大学院

製本冊数 13冊

**公開資料の概要** 愛知郡島野村大字野並(現 天白区)に本部を置いて設立された「農事改良会」を母体として全国組織へと発展した「日本農民会」が「会員からの質問に答え、必要な情報を提供し、広く会員同士の交流を図る」ことを目的として発行した月刊雑誌。

## 名古屋市博物館所蔵資料

### 武家に関する資料

資料名 石原家資料 I・II

資料番号 CNMU0/036・037

所蔵者 名古屋市博物館

**歴史** 尾張藩重臣横井孫右衛門家の家扶であった石原家に伝来する資料である。孫右衛門家は俳人也有を、石原家は同じく文樵を輩出している。二人は同時期の俳人として活躍した。

**公開資料の年代域** 江戸～明治

点数 I・72点 製本冊数 4冊  
II・32点 製本冊数 10冊

**公開資料の概要** I、IIの分類は原資料の所蔵者である名古屋市博物館のもので、Iは文書類、IIは和本類である。

Iは鷹場関係の資料が中心で、横井家の家扶であった石原家が尾張藩士として、鷹場改方などの役職についてから伝来したと思われる。中には鳥運上増方の件、鷹場改方連名での雑用銀拝領願などがある。

IIは尾張徳川家の系図など、江戸後期の写本32冊から成る。

資料名 深津家資料 I・III

資料番号 CNMU0/038・040

所蔵者 名古屋市博物館

**歴史** 尾張藩成瀬家の同心深津家の資料。

**公開資料の年代域** 江戸

点数 I・25点 製本冊数 2冊  
III・15点 製本冊数 3冊

**公開資料の概要** I、IIIの分類は原資料の所蔵者である名古屋市博物館のもの。慶長7～16年(1602～11)の平岩主計(親吉)の黒印状、元和6年(1620)の徳川義利(義直)の黒印状、成瀬隼人正(正虎)の判物など知行目録が中心。他に勤書や木曾材木奉行の職務に関する資料も含まれる。

資料IIIは、馬術や武術の免許や書籍類である。

資料名 渡辺半蔵家資料 I

資料番号 CNMU0/113

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 渡辺半蔵家は、三河譜代の家柄で、徳川家康の直臣渡辺半蔵守綱の子、半蔵重綱が尾張藩初代藩主義直に仕えたのをはじめとする。重綱の子治綱が尾張藩年寄役について以降、ほぼ代々年寄役となる。加茂郡寺部を在所とし知行高は一万千八百六十石余。

公開資料  
の年代域 江戸

点数 126点 製本冊数 41冊

公開資料  
の概要 I、IIの分類は原資料の所蔵者である名古屋市博物館のもの。元禄期の諸事留帳・勤書・心得留等をはじめとする渡辺家の勤めに関する記録や献上物・拝領物の覚などがある。

関連資料 徳川林政史研究所に「渡辺半蔵家文書」（「渡辺半蔵家文書目録」『徳川林政史研究所 研究紀要』第36号2002年）がある。

## 資料名 渡辺半蔵家資料 II

資料番号 CNMU0/115

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 徳川家康の直臣渡辺半蔵守綱の子、半蔵重綱が尾張藩初代藩主義直に仕えて以降尾張藩年寄役をほぼ世襲する。加茂郡寺部を在所とし知行高は一万千八百六十石余。

公開資料  
の年代域 江戸

点数 26点 製本冊数 10冊

公開資料  
の概要 I、IIの分類は原資料の所蔵者である名古屋市博物館のもの。渡辺半蔵家代々の当主の法事記録が大半を占める。ほかに領民の借金証文などがある。

## 町方に関する資料

### 資料名 麻屋吉田家資料

資料番号 CNMU0/082

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 麻屋吉田家は、慶長年間に清洲から名古屋に移住したと思われる「清洲越し」の旧家である。吉左衛門家・吉右衛門家・禎助家が分立し、江戸時代を通じて名古屋の有力商人の一つ。江戸時代前期には、その名の通り麻商売を行っていた。元禄、宝永頃の資料に「苧屋」・「おや」と書かれたものもみられる。一方で、商人に対して、木綿、塩などの商品を担保とする資金の貸付も行っていた。後期になると禎助家が優勢となり、瀬戸染付焼売買、味噌溜製造販売等を行った。

尾張藩の御用達商人でもあり、御勝手御用達制度がはじまった寛政10年（1798）に吉左衛門がその一人に加えられている。享和3年（1803）に制度が改革された際にも吉右衛門が御勝手十人仲間に入っている。また、吉右衛門は染付焼が開発されて蔵元制度ができると菱屋太兵衛、水口屋伝右衛門とともに蔵元を拝命している。

公開資料  
の年代域 江戸中期～明治

点数 949点 製本冊数 23冊

公開資料  
の概要 経営・金融・支配・仲間・地主経営・借家・家政など多岐にわたる内容が含まれている。

江戸時代の麻屋吉田家の動向については、文化期（1804～17年）から明治の初めまでの事項をまとめた資料「万代諸事扣」をもとに、詳述されている。

。享保3～6年（1718～21）頃の証書類がまとまっており、資金貸付の証文といわゆる借金証文が混在している。また、「元禄三年午極月目録之覚」を分析して、吉田家が行っていた家中貸（上級家臣の家計を一括して請負う）の実態を紹介している。

麻屋吉田家は、尾張藩の御用達商人でもあり、役職の任免状や調達金に関する資料も多くある。

市史へ 本文編第3巻 第9章第3節  
の掲載 本文編第4巻 第5章第2節

### 資料名 富田重助家資料

資料番号 CNMU0/099

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 富田重助家は、幕末の洋物商紅葉屋の経営者であり、明治になってからは縁戚の神野家とともに、土地・山林、銀行・保険・鉄道など各種の事業に関わった名古屋を代表する財界人の一人である。その歴史や業績について



は、既に『紅葉屋類聚歴史編・資料編』2冊にまとめられ、資料の内訳も「富田家文書目録」として掲載されている。

資料が市博物館所蔵となつてからは、新たな分類がされている。

**公開資料  
の年代域** 江戸中期～昭和

**点数** 1, 411点 **製本冊数** 77冊

**公開資料  
の概要** 特に近世の店の経営、近代の土地経営や資産に関するもの、鉄道・電力・金融・紡績などの経営に関するものを中心に収集している。

## 資料名 津田助左衛門家資料

**資料番号** CNMU0/031

**所蔵者** 名古屋市博物館

**歴史** 津田助左衛門家は、尾張藩時計師兼鍛冶頭をつとめた家。初代助左衛門が徳川家康の時計を修理したことから尾張藩主義直に仕え、「時計師兼鍛冶頭」として藩から扶持を受けるようになった。

津田家は、時計の製作・修理以外に錠鍵や各種の鉄細工を業とした。鉄細工には城下の鍛冶職人を使ったが、津田家はこれらの職人を動員・統率する権限を持っていた。

**公開資料  
の年代域** 明暦～昭和

**点数** 456点 **製本冊数** 10冊

**公開資料  
の概要** 由緒に関する資料、尾張藩作事方と細工値段の交渉に関する資料などがある。

## 資料名 水野太郎左衛門家資料

**資料番号** CNMU0/124

**所蔵者** 個人蔵（名古屋市博物館寄託）

**歴史** 水野太郎左衛門家は尾張藩の鋳物師頭をつとめた家で、遅くとも15世紀末には尾張に居住し、戦国期には広範な活動をしていた。由緒書によると、初代は春日井郡鍋屋上野村（現 千種区）にて鋳物職を営み、文禄2年（1593）二代目のときに清須へ移り、慶長16年（1611）に

名古屋鍋屋町（現 東区泉二丁目）へ移転している。

同家は鋳物師頭として尾張の鋳物師を監督し、寺鐘などを掌握し、配下の鋳物師とともに、城・御殿の建設・補修に必要な鋳物や軍事用の鋳物類をはじめ、藩主の使用する日常生活の道具などの製作にあたった。特に五代政長、六代政良の代には多くの梵鐘が製作されている。

**公開資料  
の年代域** 慶長3年（1598）～江戸

**製本冊数** 4冊

**公開資料  
の概要** 名古屋市博物館に寄託された水野太郎左衛門家資料で、水野太郎左衛門家の鋳物師支配の根拠となった歴代権力者からの判物や尾張藩主の黒印状、同家の由緒に関する資料、他国鋳物禁止をはじめとする鋳物師支配や鋳物業統制に関する資料、同家が鋳造した品や鋳造活動に関する資料等がある。

**市史への掲載** 本文編 第3巻 第9章第4節  
資料編 近世2 第3章第5節

**関連資料** 尾張国名古屋鍋屋町水野家文書（徳川林政史研究所蔵）

『尾張の鋳物師』名古屋市博物館、1983年。

林 順子「水野太郎左衛門家を中心とする尾張国鋳物師仲間の支配について」（南山大学経済学会編『南山経済研究』26巻2号（通号71）、2011年、125～139頁）。

## 熱田に関する資料

### 資料名 宮本陣南部家資料

**資料番号** CNMU0/008

**所蔵者** 名古屋市博物館

**歴史** 東海道宮宿の本陣、神戸町の南部新五左衛門家の資料である。宮宿のもう一つの本陣、森田八郎右衛門家は伝馬町にあった。神戸町の本陣を赤本陣、伝馬町の本陣を白本陣ともいう。

**公開資料  
の年代域** 江戸前期～明治

**点数** 124点 **製本冊数** 14冊

**公開資料  
の概要** 「大福帳」や宿泊記録の他、文化年間（1804～

17年)から弘化3年(1846)に至る「相統諸事留」が含まれる。その中には寛政5年(1793)の大名宿泊料・休憩料の定めをはじめとして、本陣の経営に関わるさまざまな事項が書き留められている。その他、本陣南部家の絵図面や由緒書などもある。

市史へ 本文編第3巻 第6章第3節  
の掲載 本文編第4巻 第7章第2節

## 資料名 熱田江崎家資料

資料番号 CNMU0/012

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 江戸時代、東海道を通行する者は、将軍が発給する朱印状を所持していれば人馬の使用が無償とされた。この朱印状を確認する役目を熱田御朱印改役といい、尾張藩独特の制度であった。本資料は、この役目を受持った江崎清左衛門家に伝来したものである。

公開資料  
の年代域 江戸

点数 35点 製本冊数 39冊

公開資料  
の概要 寛永17年(1640)から元治元年(1864)に至る御朱印改控帳26綴が揃っており、他に宝暦～嘉永の諸事留4綴もある。

市史へ 本文編第3巻 第6章第3節  
の掲載 本文編第4巻 第7章第2節

資料名 名古屋市博物館所蔵

## 御朱印之写并御折紙之写

資料番号 CNMU0/120

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 慶長6年(1601)、江戸幕府は「伝馬朱印」という朱印状を携帯する者に対し、伝馬を出すことを命じる伝馬掟朱印状を東海道各駅に出した。このことを受けて、熱田町の宿場(通称「宮宿」)では、「伝馬朱印」を携行する者の改めを行う朱印改役が置かれ、元和8年(1622)に江崎清左衛門末久が任じられた。以後、江崎家の者が代々その役をつとめた。

公開資料  
の年代域 寛永10～13年(1633～1636)

製本冊数 1冊

公開資料  
の概要 朱印改役を勤めた江崎家に残る留書、全27冊は名古屋市博物館に寄贈され、現在同館に所蔵されている。この「御朱印之写并御折紙之写」はそのうちの1つで、寛永10～13年(1633～1636)の記録が残る留書である。朱印状とその改め方について一件ごとに書き留めたもので、通行の実態を知ることができる資料である。

市史への掲載 資料編近世2 第2章第2節「53 寛永十年～一三年 御朱印之写并御折紙之写」として掲載。本文編第3巻第6章第3節に宮宿と江崎家の概要が述べられている。本文編第4巻 第7章第2節に表紙写真及び朱印改役について解説を掲載。

関連資料 研究書に西田躬穂「熱田御朱印改役について」(『徳川林政史研究所研究紀要』昭和57年度)がある。また、名古屋市博物館所蔵「熱田江崎家資料」は、史料点数40点の内一部が『愛知県史 資料編15 名古屋・熱田 近世1』に収録されている。

## 村方に関する資料

資料名 春日井郡小田井村

## 野口市兵衛家資料

資料番号 CNMU0/001

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 野口市兵衛家は、下小田井村(現西春日井郡西枇杷島町)の青物問屋で、慶長19年(1614)に小川九左衛門とともに青物問屋を始めた、枇杷島の青物市の創始者とされる家である。元和8年(1622)に枇杷島橋架橋の際には橋守を命じられ、その役目を明治6年(1873)まで続けている。8代目市兵衛は名を道直といい、岡田啓とともに『尾張名所図会』の編さん者として知られている。

公開資料  
の年代域 江戸初期～明治

点数 132点 製本冊数 10冊

公開資料  
の概要 橋守あるいは掃除給に関するもの、青物問屋・

仲間に関するもの、野口家の由緒に関するもの、野口道直が和歌を師事した日潤上人を初めとする書状などから成る。なお、本資料中の「文化元年より酉迄拾年 他所産物書上帳」と「八百屋騒動秘記」は『西枇杷島町史』に翻刻されている。

## 資料名 愛知郡鳴海町役場資料

資料番号 CNMU0/007

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 江戸期～明治22年(1889)、鳴海村  
明治22年～昭和38年(1963)、鳴海町

公開資料の年代域 江戸中期～大正

点数 220点 製本冊数 65冊

公開資料の概要 近世の資料として、村関係では、免定、免割勘定帳、年貢総目録、皆済帳などがある。鳴海宿関係として、問屋の収入支出を記した請払帳や御改判帳、宿助成のための勿銭を割り付けた書上帳などがある。勿銭については、問屋や人足などの外に、火事で類焼した旅籠の一軒一軒に損害に応じて下げ渡されている事例(文化8年(1811))もあり、鳴海宿の運営実態を知ることができる。他に旅籠間取図や天保11(1840)年から安政5年(1858)に至る御用留がある。

近代では、鳴海町の財産状況を示すものとして「町村財産台帳」(明治30年(1896))がある。また、「引継御用留」や「引渡目録」からは、明治期の村で必要とされた基本的な台帳の種類を知ることができる。

村の実際を示す資料として営業願・渡世願などがあり、明治初年から20年頃にかけての鳴海村の農業以外の生業を把握できる。

戦争関係では、日清・日露戦争に関する資料がまとまっている。

市史への掲載 本文編第4巻 第7章第1節  
本文編第5巻 第8章第2節

## 資料名 愛知郡鳴海村下郷家資料

I・II

資料番号 CNMU0/005・026

所蔵者 名古屋市博物館

公開資料の年代域 江戸初期～明治

点数 I・23点 製本冊数 1冊  
II・797点 製本冊数 22冊

公開資料の概要 I・IIは所蔵者である名古屋市博物館の分類による。資料の宛名・差出から愛知郡鳴海村で惣年寄をつとめた下郷家の本家の資料と思われる。

近世の資料として、寛政11年(1789)から明治4年(1871)に至る被官百姓や奉公人とその家族の宗門送り一札がある。各村の庄屋から送られてきたものと本家から送ったものの控が混在している。

享保3年(1718)から文久2年(1862)に至る奉公人請状からは、一年季のもので知多郡や三河からの奉公の多いことが分る。

借入金証文も残されており、鳴海村惣年寄という立場上、村に貸したのものもあるが、多くは酒造資金を名目として借用したものである。下郷本家は大地主であり、その地所である水袋新田を担保に、天保12年(1841)頃から安政5年(1858)までの間、毎年のように借用し、翌年返済しては再び借りている。江戸後期における下郷本家の経済状態を窺うことができる。その関連から同地所の絵図面や掟米小作帳なども残っている。

書状としては、本家と江戸店との間の酒・米相場や捌方など商いに関するものが多い。本の貸し借りなど文化的なものもある。

ほかに寛永20年(1643)・慶安4年(1651)・明暦3年(1657)の年貢皆済目録が残っている。

近代資料としては、明治の初めに次郎八が副戸長をつとめていた関係で、村資料が多い。

地租・土地関係資料として、明治6年(1873)の地券申受帳や地価仕出帳、明治10年(1877)の地価取調帳、明治10年代の「開墾地期明一筆限帳」などがある。

鉄道敷設に関する資料も残されており、鉄道敷設の増用工事に伴う潰地の免租願書や明治6年の鉄道寮御雇英国人建築首長ボーエルの鳴海宿通過の先触も見ることができる。

## 資料名 大矢家資料

資料番号 CNMU0/027

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 大矢家は、春日井郡児玉村(現西区児玉)庄屋。大矢作左衛門重治は、天保14年(1843)から庄屋をつとめ、明治に入り児玉村戸長をつとめている。その子長之助も西春日井郡金城村の村長をつとめている。

公開資料  
の年代域 江戸中期～昭和

点 数 540点 製本冊数 65冊

公開資料  
の概要 資料の大半は、村の支配関係資料であり、家資料は少ない。

近世のものとして、児玉村に關係する免定、物成請取書、三役銀取立帳など貢租関係や願達留などがある。次年度の米の取り入れを担保とした借用証文や村に課せられた先納金の下渡割賦書も見られ、幕末の経済状況が窺える。

作左衛門は、安政3年(1856)9月、小場塚新田の庄屋となったのをはじめに、児玉村周辺の複数の村の庄屋をも兼任した。その関係で小場塚新田や新屋敷村、上小田井村など児玉村以外の村の資料も見られる。

また、作左衛門は、村内や村と村との間で起こる種々の公事の仲裁人(資料には立入人とある)を引き受けている。その具体的な事例・顛末を記した安政3年(1856)から慶応4年(1868)までの覚書もあり、村方騒動や村間の水争い、百姓と地主の争いから個人的な金談まで、内容は多岐にわたり、幕末の農村の様相を伝える資料といえる。

作左衛門は、安政2年(1855)6月から明治にかけて庄内井組取締役を仰付られている。井組の盆前と盆後の諸入用取集帳や覚帳、庄内用水から分水する八新田への井領米割符帳もあり、新田の村別負担金が示されている。

近代の資料としては、児玉村戸長と金城村村長をつとめた関係で、租税割符帳や戸数割等級調帳、下用割符帳、田畑宅地名寄帳など貢租に関する帳面類が多く残っている。

明治33年(1900)、枇杷島村大字井戸田における屠場建設が認可された。その工事や土取場の所在をめぐって金城村と争い、境界論争に発展している。この争いに関する両村の絵図もあり、明治42年(1909)に金城村が屠場設置反対を唱えた際の上申書もみられる。

明治24年(1891)10月に発生した濃尾震災関係の資料として、児玉村における被害状況書上や翌25年西春日井郡の村々が救済請願のため上京した日誌簿、そのために費やした経費に関する資料がまとまっている。

また、嘉永3年(1850)から明治10年(1877)に至る日記が残されているが、上記の諸事項が書き留められた御用日記の性格が強い。

なお、尾張藩領の村方全般に関する資料として、安政5年(1858)の有力庄屋の格付け一覧ともいえる「献金=付御領分地方楷級御免許人別記」や元治元年(1864)の長州征伐に際して村方に10万両の調達を命じた「長州御征伐御費用御引請申上村々献金割符覚帳」がある。

資料名 名古屋市博物館所蔵

## 坂野家資料

資料番号 CNMU0/116

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 鳴海宿には、鳴海村としての村役人(庄屋・組頭等)と宿場町としての宿役人(問屋・年寄・帳付等)がおり、村の有力者が世襲ではなく交代してつとめていた。坂野家は鳴海宿の村役人・宿役人を出す名望家である。代々三右衛門を名のり、折々に組頭・問屋定仕埋・問屋・庄屋見習・庄屋などをつとめ、伝馬新田地主でもあった。明治5年(1872)には坂野春太郎(三右衛門)氏が愛知郡第二大区十小区戸長をつとめ、明治23年(1890)には鳴海町長や愛知県会議員もつとめている。

公開資料  
の年代域 宝永5年(1708)～明治25年(1892)

製本冊数 18冊

公開資料  
の概要 資料の大半は借用証文で、村としての借金や頼母子講宛のものもみられる。また、丹下町関係の横帳や、鳴海宿関係、鳴海伝馬新田関係の資料もある。その他、幕末～明治維新期の出来事についての資料を書写した帳面が多くあり、和歌や絵画、漢詩文などもある。

市史への掲載 本文編第4巻 第7章第1節  
資料編近世3 第3章第1節

関連資料 愛知郡鳴海町役場資料(名古屋市博物館所蔵)、下郷家資料

資料名 名古屋市博物館所蔵

## 小出勝彦家資料

資料番号 CNMU0/110

所蔵者 名古屋市博物館

歴史 海東郡万場村は佐屋街道の宿場である。小出家は、万場宿で年寄・庄屋・船庄屋をつとめており、儒学者小出聚斎(定吉)を輩出している。

公開資料  
の年代域 明治

製本冊数 17冊

公開資料  
の概要 資料は明治以降のもので、内容は大きく、神官

関係資料、土地経営資料、宿村関係資料、の3つに分類される。

なお、小出家伝来の近世資料については、「小出勝彦家資料黒川」（名古屋市博物館所蔵）を参照されたい。

**関連資料** 万場村小出家の資料としては、別に名古屋市博物館所蔵「小出勝彦家資料 黒川」がある。万場村については、名古屋市博物館所蔵「海東郡万場村資料」がある。

**資料名** 名古屋市博物館所蔵

## 小出勝彦家資料 黒川

**資料番号** CNMU0/117

**所蔵者** 名古屋市博物館

**歴史** 海東郡万場村は佐屋街道の宿場である。小出家は、万場宿で年寄・庄屋・船庄屋を勤めており、儒学者小出聚斎（定吉）を輩出している。

**公開資料  
の年代域** 江戸

**製本冊数** 2冊

**公開資料  
の概要** 小出家に伝わる資料で、名古屋市博物館所蔵「小出勝彦家資料」とは、元々同じ文書群であった。小出勝彦氏の親戚である黒川秀雄氏によって一部が移管・整理されていたもので、新修名古屋市の編さんの際に再整理し、現在は名古屋市博物館に所蔵されている。

その大半が、万場村庄屋をつとめた小出定吉の御用留で、水濡れなどの破損により綴りが解けたらしく1枚ずつ離して保管されているが、もとは数冊の縦帳であったと思われる。

内容は御用留の性格上村政全般にわたり、行政に関するもの、年貢に関するもの、村送り・縁組など戸口に関するもの、村形入用・氏神祭礼等共同体に関するもの、交通（宿関係・水運関係）に関するものがある。また、庄内川の坩・川浚・堤通の管理に関する資料や、新川・宮田大川・萱津用水などの堤築立や坩伏替に関する資料など、治水関係も多い。

**市史への掲載** 『資料編 近世1』第3章第2節

**関連資料** 万場村小出家の資料としては、別に名古屋市博物館所蔵「小出勝彦家資料」がある。万場村については、名古屋市博物館所蔵「海東郡万場村資料」がある。

**資料名** 名古屋市博物館所蔵

## 尾陽寛文記

**資料番号** CNMU0/118

**所蔵者** 名古屋市博物館

**公開資料  
の年代域** 延享元年（1744）著、書写年代は天明元年（1781）以降

**製本冊数** 1冊

**公開資料  
の概要** 本書は寛文年間（1661～1673）頃の名古屋（熱田を含む）に木曾・知多を加えた地誌、および芸能文化、巷談街説、珍談奇談などを収めた書。著者は立錘軒如儂（刑部如儂）。『尾陽寛文記』には諸本が存在しているが、ここに公開するのは名古屋市博物館本1冊である。『尾陽寛文記』の諸本の中で、人見璣邑自筆の最善本とされる柳生延夫氏蔵本よりも後に書写されたと考えられる。

**関連資料** 『尾陽寛文記』の柳生延夫氏蔵本は『新修名古屋市史 資料編近世2』第4章第1節に翻刻と解説が掲載されている。

**資料名** 名古屋市博物館所蔵 上古考

**資料番号** CNMU0/125

**所蔵者** 名古屋市博物館

**歴史** 尾張藩では尾張藩の国用人・国奉行である人見璣邑（享保14年（1729）～寛政9年（1797））が儒学者細井平洲を招き、安永9年（1780）から尾張藩の藩政改革（天明・寛政改革）をおこなっていた。その一方、本居宣長を中心とした国学が尾張藩でも高まりを見せ、天明7年（1787）には、国学的見地から人見璣邑・細井平洲の藩政改革を批判する『白真弓』が横井千秋により著された。人見璣邑は、こうした国学の動きに警戒し、寛政2年（1790）に宣長著『古事記伝』が尾張藩主宗睦へ献上されるにあたっては「政治に害がある」との一札を付けさせ、寛政3年（1791）6月に『玉鉦擬歌』と『上古考』を著し宣長批判を展開した。その後、人見璣邑は、寛政4年（1792）3月に名古屋を訪れた本居宣長と面談する機会をえた。その席上での話は『本居宣長人見璣邑面話之次第』として残されている。

## 著述等

**公開資料  
の年代域** 寛政3年（1791）6月著以降

**製本冊数** 1冊

**公開資料  
の概要** 寛政3年（1791）6月に人見璣邑が著した本居宣長批判の書。

はじめに国学の潮流を概説・批評し、古代研究としての「古学」が政治論に転化していくことを批判し、続けて国学の各言説に対しては箇条書きで反駁を加えている。特に日本主義的世界観が非現実的であるとして、これを痛烈に批判している。

**市史への掲載** 資料編近世3 第4章第1節「134 宣長批判論（人見璣邑）」として掲載。

**関連資料** 本居宣長著『臣道』、『秘本玉くしげ』、『玉くしげ』、『古事記伝』等。

横井千秋著『白真弓』（無窮会神習文庫所蔵）は、資料編近世3 第4章第1節「132 白真弓（横井千秋）」として掲載。新井有雄筆記、人見璣邑補『本居宣長人見璣邑面話之次第』（名古屋市鶴舞中央図書館所蔵名古屋市史資料3-85）は、資料編近世3 第4章第1節「135 璣邑・宣長問答」として掲載。

## 愛知県・名古屋市域に関する近代資料

**資料名** 名古屋市博物館所蔵 近代資料

### 愛知郡南野村立松家資料

**資料番号** CNMU0/112

**所蔵者** 名古屋市博物館

**歴史** 南野村は尾張国愛知郡のうちの星崎7ヶ村の1つ。はじめ尾張藩領、明治元年（1868）からは尾張藩と美濃今尾藩の相給となった。鳴海代官所支配。明治11年（1878）11月26日に南野村、八左衛門新田、操出新田、大江新田の四村が合併して星崎村となった。

**公開資料  
の年代域** 嘉永6年（1853）～昭和45年（1970）

**製本冊数** 12冊

**公開資料  
の概要** 旧南野村（愛知郡星崎村大字星崎南野（現 南区））地域に関する資料で、現在は名古屋市博物館が所蔵す

る資料の内、市史編さん時に収集したものを公開する。幕末のものもあるが、その多くは南野組惣代、南野組地主惣代、南野組土木惣代、南野組臨時土木惣代が作成した近代のものである。協議費徴収・支払い関係、暴風災害等堤補修関係、掟米関係、地価関係等の資料がある。

**関連資料:** 南野村資料(名古屋市博物館所蔵:『資料編 近世1』に掲載)、愛知郡南野村絵図(徳川林政史研究所所蔵:『資料編 近世1』図版16に掲載)、尾張国愛知郡南野村文書(関西大学図書館蔵)、愛知郡村誌(『資料編 近代1』に掲載)など。

**資料名** 名古屋市博物館所蔵 近代資料

### 春日井郡楠村安藤商店

### 関係資料

**資料番号** CNMU0/112

**所蔵者** 名古屋市博物館

**歴史** 楠村は、西春日井郡の如意村と味鋤村が明治39年（1906）に合併してできた村で、のちに楠町となり、昭和30年（1955）には名古屋市北区に編入された。

**公開資料  
の年代域** 明治8年（1875）～昭和5年（1930）

**製本冊数** 11冊

**公開資料  
の概要** 内容は、明治34年（1901）～大正12年（1923）の肥料売買営業免許関係の資料及び明治8年（1875）～昭和5年（1930）の肥料原料関係の判取帳が10点である。明治43年（1910）6月に安藤吾三郎が亡くなったため、息子の安藤信太郎が家督を相続し肥料販売営業免許を改めて願っている。

**資料名** 名古屋市博物館所蔵 近代資料

### 緑区役所旧蔵資料

**資料番号** CNMU0/112

**所蔵者** 名古屋市博物館

**公開資料  
の年代域** 明治18年（1885）～大正15年（1926）

製本冊数 6冊

#### 公開資料

**の概要** 名古屋市緑区役所が旧蔵していた資料で、現在は名古屋市博物館が所蔵する。市史編さん時に収集した8点を公開する。内容は、愛知郡鳴海村戸長役場で作成された3点、愛知郡鳴海町役場で作成された4点及び有松町役場で作成された1点で、いずれも徴税関係の簿冊である。

### 名古屋市博物館所蔵資料【その他の資料】

#### 公開資料

**の概要** この資料群は、名古屋市博物館が所蔵する資料の内、新修名古屋市史編さんのため重要と思われる資料を抽出したもので、博物館ではそれぞれ、資料単独名となっている。

尾張藩治水関係資料【CNMU0-002】  
海東郡万場村資料【CNMU0-003】  
愛知郡南野村資料【CNMU0-004】  
愛知郡岩作村資料I【CNMU0-006】  
尾張犬山市橋家資料【CNMU0-009】  
岩田屋加藤家資料【CNMU0-010】  
琉球人通行関係資料【CNMU0-011】  
船荷届出資料【CNMU0-013】  
熱田社領関係資料【CNMU0-014】  
愛知郡熱田前新田資料【CNMU0-015】  
知多郡成岩村資料【CNMU0-016】  
熱田中瀬町資料【CNMU0-017】  
海東郡助光村資料【CNMU0-018】  
下里知足書状【CNMU0-019】  
下郷蝶羅書状【CNMU0-020】  
根居【CNMU0-021】  
火事根居【CNMU0-022】  
変事根居【CNMU0-023】  
地方覚書【CNMU0-024】  
鳴海宿諸事覚帳【CNMU0-025】  
田中家資料【CNMU0-028】  
上村家資料【CNMU0-029】  
石原家資料【CNMU0-030】  
石川家資料【CNMU0-032】  
水野太郎左衛門家資料【CNMU0-033】  
中野家資料【CNMU0-034】  
中山家資料【CNMU0-035】  
尾張徳川家資料IV【CNMU0-039】  
成瀬家資料【CNMU0-041】  
酒井家資料【CNMU0-042】  
竹腰家資料I【CNMU0-043】  
（尾張徳川家）東海道御行列記録【CNMU0-044】  
（尾張徳川家）日光御道中御行列【CNMU0-045】

伊藤圭介書状【CNMU0-046】  
諸友投示 小箋雑綴【CNMU0-047】  
愚文日記（抜書）【CNMU0-048】  
濃信越 陣中書 東京附【CNMU0-049】  
[名古屋藩]借米請取状【CNMU0-050】  
瀧川家資料【CNMU0-051】  
尾張藩御小納戸所御払請取書綴【CNMU0-056-250】  
御用帳（杉浦弥八筆 尾張藩刑場記録）【CNMU0-053】  
尾張徳川家関係記録【CNMU0-054】  
覚書（慶応元年(1865)5月7日写）【CNMU0-055】  
尾張藩御借米・御切米割帳【CNMU0-056】  
永久講取立方覚【CNMU0-057】  
御側組同心無息見習撰方根居【CNMU0-058】  
尾張藩正米会所鑑札【CNMU0-059】  
名府年頭暑寒廻勤留【CNMU0-060】  
覚書（尾張藩関係記事）【CNMU0-061】  
和訓 粟生記【CNMU0-062】  
名古屋城寄場之図【CNMU0-063】  
熱田船場御番所夜船覚書【CNMU0-064】  
尾州清洲城主 松平薩摩守忠吉卿御家中分限帳【CNMU0-065】  
菓草見分信州木曾山道中記【CNMU0-066】  
御家中所附分限帳【CNMU0-067】  
御家中分限帳【CNMU0-068】  
尾張八郡村高記【CNMU0-069】  
御拝領元高【CNMU0-070】  
比江井仁左衛門家勤書等綴【CNMU0-071】  
[熱田役所]隠密秋平京都出張報告聞書【CNMU0-072】  
御家中屋敷帳【CNMU0-073】  
御祭礼留【CNMU0-074】  
水野太郎左衛門覚書綴【CNMU0-075】  
竹腰家鷹場金借用関係資料【CNMU0-076】  
伊藤圭介関係資料【CNMU0-077】  
相原家資料【CNMU0-078】  
名古屋西菅原町資料【CNMU0-079】  
原田家資料【CNMU0-080】  
質札・質屋台帳【CNMU0-081】  
藤屋加藤家資料【CNMU0-083】  
伊藤圭介書状【CNMU0-084】  
（佐屋・宮）出船入【CNMU0-085】  
御融通講仕方【CNMU0-086】  
（名古屋）御城下并在辺祭礼記【CNMU0-087】  
（名古屋伝馬町内）振舞金留帳【CNMU0-088】  
尾張藩町奉行所調達金請取状【CNMU0-089】  
火事之時水汲人数留 まとひ印組之定【CNMU0-90】  
木挽町御屋敷水門外海江出御船御道具之事【CNMU0-091】  
御用留【CNMU0-092】  
西之切宗門下改【CNMU0-093】  
井上土朗等書状【CNMU0-094】  
名古屋玉屋町十一屋小出庄兵衛家資料【CNMU0-095】  
飯田町町代資料【CNMU0-096】  
名古屋海老屋町 松下喜兵衛家堀田茂助日記  
【CNMU0-097-284】  
（名古屋末広町）永々改革記【CNMU0-098-284】

(名古屋東照宮) 御祭礼車警固行列書【CNMU0-100-357】

(名古屋東照宮) 御祭礼行列書【CNMU0-101-357】

林下制約【CNMU0-102-357】

定光寺 御名代御供御勤書【CNMU0-103-357】

開扉諸軸順次并縁起【CNMU0-104-358】

御祭礼行列次第【CNMU0-105-358】

- ・ 名古屋東寺町普蔵寺資料
- ・ (名古屋・熱田) 諸々寺々寄
- ・ 力草
- ・ 俳諧菖蒲草
- ・ 名古屋県布告
- ・ 名古屋県第九区(熱田区) 関係布達留
- ・ 本町町会書類
- ・ 明治十三年度上半村会議案(鳴海村)
- ・ 愛知郡千竈村村会議案綴
- ・ 西加茂郡第一部落農談会記録
- ・ 町内会整備の指針
- ・ 町内会整備の経過と其の顛末
- ・ 春日井郡大永寺村水野家資料
- ・ 熱田区大瀬子町資料
- ・ 西春日井郡楠村資料
- ・ 名古屋防空関係資料
- ・ 瑞穂区・摩町町内会資料
- ・ 中区松枝町町会資料
- ・ 軍人遺家族後援ニ関スル書類綴
- ・ 愛国婦人会記録綴
- ・ 東春日井郡町村会議決書類
- ・ 愛知郡呼続町高田資料
- ・ 愛知県布達
- ・ 勢州一揆暴動記
- ・ 正権区長、正副戸長職掌章程
- ・ 県庁各課事務並郡治職制別章程
- ・ 歩兵第228連隊関係資料
- ・ 国民労務手帳
- ・ 名古屋工廠工員手帳
- ・ 小学校建設願
- ・ 学校所在地外居許可書
- ・ 菊水学校諸願届留
- ・ みやこのたひね・明治大地震筆記
- ・ 地方震災実況探記
- ・ 相互信用録
- ・ 愛知農商銀行 第四十六期営業報告書
- ・ 株式会社名古屋商品取引所定款・目論見書
- ・ 大東紡織給料明細帳
- ・ 稲垣家家計簿
- ・ 明治十一年十月写之 明倫学校開校詞文
- ・ 愛知県職員録
- ・ 帰田相願候者給録石高御手当換算表
- ・ 昭和一四年産米生産費調査
- ・ 全国土地区画整理事業者大会資料
- ・ 教員手帳
- ・ 東区小川町関係資料
- ・ 愛知郡鳴海村年貢関係記録
- ・ 名古屋市東郊耕地整理組合減歩表
- ・ 名古屋市東郊耕地整理組合書類
- ・ 名古屋市瑞穂耕地整理組合資料
- ・ 愛知郡呼続町町会資料
- ・ 名古屋市接統町村聯合会決議
- ・ 愛知県愛知郡諸達留
- ・ 愛知郡神戸尋常小学校資料
- ・ 愛知郡織豊村稲葉地資料
- ・ 田代国民学校後援会評議員囑託状
- ・ 名古屋養牛株式会社社雇用辞令
- ・ 帰田調金割符帳
- ・ 士族帰田調金御談一件
- ・ 二等受業生任命辞令
- ・ 二等受業生解任辞令
- ・ 疎開衣料移動に関する通知
- ・ 石原家旧蔵戦争関係資料
- ・ 帝国在郷軍人会 名古屋支部報
- ・ 帝国在郷軍人会 南久屋分会員手簿
- ・ 第三師団長 上奏写
- ・ 参謀長会議ニ於ケル佐藤大佐ノ口演要旨
- ・ 名古屋市小学校女教員講習会修了
- ・ 愛知県女子師範学校卒業者講習会関係資料
- ・ 第三師団大正一三年度師団仮設敵演習講評
- ・ 師団長統監第三師団秋季演習想定及演習経過ノ概要
- ・ 大正十一年度教育ニ関スル意見 第三師団
- ・ 大正一三年六月隨時検閲ノ際 工兵第三大隊長ニ与フル訓示
- ・ 大正一三年六月隨時検閲ノ際 飛行第二大隊長ニ与フル訓示
- ・ 大正一三年六月隨時検閲ノ際 岐阜連隊区司令官ニ与フル訓示
- ・ 大正一三年十月団体長会議ニ於ケル師団長訓示
- ・ 大正一三年十月団体長召集ノ際 各部隊長提出事項及答解
- ・ 大正一三年十月団体長会議ニ於ケル参謀長口演要旨
- ・ 大正一三年六月隨時検閲ノ際 輜重兵第三大隊長ニ与フル訓示
- ・ 大正一三年五月隨時検閲ノ際 歩兵第六連隊注意事項
- ・ 大正一三年六月隨時検閲ノ際 輜重兵第三大隊注意事項
- ・ 大正一三年五月隨時検閲ノ際 桑名連隊区司令官ニ与フル訓示
- ・ 大正一三年六月隨時検閲ノ際 名古屋連隊区司令官ニ与フル訓示
- ・ 大正一三年六月隨時検閲ノ際 騎兵第三連隊注意事項
- ・ 東区小川町二丁目町内会庶務防空関係書類綴
- ・ 西春日井郡西枇杷島町郷第二部町内会資料
- ・ 国民防空
- ・ 我家の生活





---

発行年月 平成31年3月  
発行・編集 名古屋市市政資料館  
〒461-0011  
名古屋市東区白壁一丁目3番地  
TEL (052)953-0051  
FAX (052)953-4398

---

この用紙は、古紙パルプを含んだ再生紙を使用しています。